

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
安形 真	あがた まこと	合同会社アグリホリック / ネクストコモンズラボ西条	<p>◆起業支援コーディネーター 1地域10人程度の起業家に対し、経営戦略、マーケティング、ブランディング、財務会計など総合的な起業支援を継続的に行う。また起業家と地域・企業を繋げながらコミュニティ形成も行う。 行政との連携の中で「起業＝チャレンジ」から生まれる新たな産業づくりや町の特色の創造にも貢献する。</p> <p>【実績】 愛知県「三河の山里サポートデスク」 愛媛県西条市「ネクストコモンズラボ西条」</p>
秋元 祥治	あきもと しょうじ	岡崎ビジネスサポートセンター OKa-Biz/NPO法人G-net	<p>▼G-net NPO法人G-netは、岐阜を拠点に15年前より、中小企業の社長の右腕として熱意ある若者を半年間右腕として送り込む実践型インターンシップや、「みぎうで」就職支援を行っています。高校「政治経済」の教科書にも掲載されています。年間1万人を超える若者に地域の中小企業の魅力を伝え、約100名が半年間等の実践型インターンシップに参画しています。「若者が選ぶ魅力的な中小企業100選」といった冊子刊行を含め、中小企業への「みぎうで」候補としての就職支援も展開しています。</p> <p>▼OKa-Biz OKa-Bizは岡崎市・岡崎商工会議所が設置した「売上アップに特化」した中小企業支援センターです。富士市産業支援センター・f-Bizをモデルに全国最年少センター長として、成果続出から相談は1ヶ月半待ちに。開設2年で当初目標の300%を超える来訪相談件数や、年間約50件の視察受け入れ、首相官邸での表彰や中企庁長官も来訪。f-Biz・OKa-Bizをモデルに、各地で新たな産業支援センターの立ち上げがH28年度以降続々と予定されています。</p>
浅尾 均	あさお ひとし	有限会社 浅尾計画事務所	<p>全国各地における地域振興・観光振興・交流人口の増加などの取り組みについての課題、問題点、疑問に対する解決策や、それを導き出すためのアイデアの提示、あるいは解決策を導き出すためのアドバイス、ワークショップの支援、コンサルティング、プランニングなどを仕事としています。 現在は、「インバウンド」、「新たな広域連携」、「人材育成」、「ニューツーリズム」などをテーマに、各地にて実践的な事業に関わっています。</p>
安部 敏樹	あべ としき	一般社団法人リディラバ/株式会社Ridilover	<p>■社会課題・地域課題をテーマとしたスタディツアーを企画し新たな市場を開拓。 ■被災地での教育旅行をとした復興支援（例：釜石での被災後初の100人規模での教育旅行など）。 ■安倍首相が座長を務める観光立国推進会議での「アクションプログラム2015」として政策化。 （11）国民の旅行振興に向けた意識醸成・環境整備”の項目において「若者に旅の意義や素晴らしさを伝える「若旅★授業」を地方で拡大するとともに、若者の関心が高い、エネルギーや地域医療など様々な社会テーマを扱ったツアー商品の造成を推進し、より多くの若者が旅に出るきっかけを創出する。【新規】という形で記載。 ■観光から移住定住・産業振興・事業承継・MICE誘致を一貫して実現（例えば林業のツアーを通して5人の事業承継・移住の実現など。これまで20人以上がツアーを通しての移住や2拠点居住を実現したと思われる）。 ■600人以上のボランティアマネジメントを通しての課題の洗い出し。 ■社会起業家の経営者向けカンファレンスR-SIGを300人規模で3年連続開催。京都・つくばなどの地域開発に寄与。 ■東大の講義にて200人の学生に対し、ソーシャルビジネスのためのチームビルディングなど講義から30以上のプロジェクトを創出。講義をまとめた著作『いつかリーダーになる君たちへ』（日経BP）がAmazonで部門別1位を達成。 ■被災地の医療現場における鍼灸師などを含めた新たな医療チーム体制の構築と実施・ ■R-SIGにおけるソーシャルビジネスのプログラム”CrossPoint”、観光庁研修、青森県研修、スタディツアーなどを通して100地域150社以上のインキュベーション支援。 ■述べ20校以上の教育旅行の実施。 ■スタディツアーなどの事業を通して扱うテーマは「農・林・水産業」「環境」「医療・介護・福祉」「貧困」「地域活性化」「公共事業」など200弱。 ■東証一部上場企業なども含め企業の幹部研修や人事研修としての地域課題・社会課題の現場での研修事例も10以上 ■アカデミックなアクティブラーニング、ファシリテーションの講義などを東京大学などの大学教員から各地の教育委員会や校長向けに実施 【リディラバの事業に関連するURL】 [Travel The Problem: スタディツアー専門の旅行サービス] https://traveltheproblem.com/ [TRAPRO: 社会問題の百科事典] http://www.trapro.jp/ [TRAPRO移住ロコミ: 地域の気になるロコミが集まるサイト] https://iju.trapro.jp/ [「社会起業」の最先端を知る] 招待制カンファレンス: R-SIG (アール・シック)] http://ridilover.jp/R-SIG/ [リディラバ (HP)] http://ridilover.jp/</p>
天野 礼子	あまの れいこ	NPO法人「日本に健全な森をつくり直す委員会」	<p>H23年より、島根県西部の高津川流域の三市町、益田市、津和野町、吉賀町に「総合特区」への立候補を推し、当選。「アドバイザー」を務めた。事務局長を務めるNPO法人「日本に健全な森をつくり直す委員会」では養老委員長と共に、高津川流域に「二地域居住から定住へ」を進めてきている。</p>
飯田 修	いいだ おさむ	独立行政法人医薬基盤研究所 薬用植物資源研究センター筑波研究部	<p>漢方薬など医薬品原料となる優良生薬の国内生産を目指し、長年薬用植物の栽培と育種研究に従事。その間、茨城県つくば市、北海道名寄市、静岡県南伊豆町、鹿児島県中種子町にて勤務し、センキュウ、トウキ、ミシマサイコ、ウコン、ガジュツなど北方系から南方系まで多種多様な薬用植物の育成・栽培を行ってきた。さらに薬用植物の栽培指針と品質評価の冊子作成に携わり、栽培地での栽培指導や助言を行ってきた。今後、薬用植物の国内栽培の普及と振興を目指し、国産生薬の安定供給体制の構築に向け、生産のための支援を行って行きたい。</p>

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
飯田 一民	いいた かずたみ	有限会社 食創造さんだかん	<p><アドバイザー/伝承名人としての派遣履歴他> 北檜山町・松前町・和寒町・下川町・長沼町・日高町・占冠村・小清水町・北海道商工会連合会講師・網走市・道南3町(松前・上ノ国・江差)広域連合・留萌支庁・空知支庁事業評価委員・全道市長会基調講演など</p> <p><アドバイザー/伝承名人としての実施取組み> 下川エミュー肉燻製開発・松前町「あわびごはん」開発・瀬棚町海産加工品開発・その他商品名・デザイン等の創出・百貨店北海道物産展企画協力(三越・大丸・西武・丸井等) 「農家の友」「しゃりばり」等に執筆「生産現場からの新しいビジネスチャンス」など 道内各地域の道の駅再生活性化事業・地元ブランドの推進を手掛け「食」からの地域活性化を勧めている。 ※ 道の駅「ライスランドふかがわ」設置企画協力 ※ 道の駅「北前船松前」総合プロデュース 他 ※ 生産現場と都市部との協働事業として「北海道応援宣言プロジェクト!!」 札幌の飲食店で毎月道内各地域の食事会を開催(総合企画監修) ※ 百貨店と協力して北海道地域・生産者の食材・加工品のトライアル販売を実施</p> <p><(有)食創造さんだかん概要> 1983年珈琲専門店サンダカンとして開店 1988年レストランサンダカンとして現地に新規移設開店 1993年全国北海道物産展へ参画、(株)三越・(株)大丸他 1999年食創造さんだかん工房として食肉加工工房を併設する 2003年深川市の委託を受け、「道の駅」内でレストラン運営</p> <p>2014年深川市ものづくり事業で「牛こら」「旨とん」の商標特許取得</p>
石原 修	いしはら おさむ	生活協同組合 コープおきなわ	<p>1、6次産業化での地域へのアプローチ ①1次産業側に対し加工所の設置と販売所の設置でのお手伝い ②1次、2次、3次が連携した商品開発を行い、1次産業側で商品の権利を持ち、地域振興につなげる、両方からのアプローチでお手伝いをしています。</p> <p>2、キャリア教育での地域へのアプローチ。小中学生と一緒に商品開発を行うことで、地域への愛着(誇りづくり)をお手伝いしています。</p>
伊勢田 博志	いせだ ひろし	NPO法人ツーリズム研究機構 / (有)サポート・エムツウ	<p>〇イベント業務管理士(1級)及びフードコーディネーター1級(商品開発イベントメディア)取得者、また内閣府クールジャパン地域プロデューサーとして各地の活性化事業を支援しています。</p> <p>農林水産省支援事業 ・道の駅、日帰り温泉、国民宿舎等交流ターミナルの企画・開業プロデュース 多数 ・特産品開発及び販路支援事業など多数 ・奈良県国際芸術村にぎわいづくりプロジェクト企画担当 ・北広島町農泊事業プロデューサー</p> <p>経済産業省支援事業 ・東アジアより水俣への環境教育旅行の誘致事業プロデューサー ・地域資源を活用した商品開発及びマーケティング戦略の策定(多地域) ・クールジャパン関連事業のプロデュース(橋街道プロジェクト)</p> <p>内閣官房 ・地方の元気再生事業:4地域(北広島町、養父市、嵐山、兵庫県福崎町)プロデューサー ・内閣官房地域活性化モデルケース「橋街道」コーディネーター</p> <p>企業など ・シティホテル連盟インバウンド誘致海外セールスコーディネーター(欧州・アジア) ・大手ハムメーカーマーケティング研修(商品開発など) ・シティホテルなどのマーケティング研修(企画塾・プライダルフェアプロデュース等 ・鉄道系会社の新規事業創出・企画アドバイザー業務 など</p>
磯田 進	いそだ すずむ	-	<p>昭和大学薬用植物園では講義のほか、栽培研究や栽培管理に従事していたが、その知識や経験を通し、現在、昭和大学、昭和薬科大学、東京農業大学および放送大学で非常勤講師として教育指導を行っている。また山梨県や東京都など各地で市民講座や自然観察会を通し、自然の大切さや薬草の重要性を紹介している。これまでの経験を生かし、社団法人東京生薬協会の薬用植物栽培指導員として各地で薬用植物に関わる啓蒙や栽培指導を行っている。</p>
五日市 知香	いつかいち ちか	株式会社パイロットフィッシュ	<p>商品開発・小規模生産者、事業者支援 零細事業者や過疎化で悩む地方を主体に取り組みを行っています。ベースは「6次産業化」。新商品企画、商品化までの計画、パッケージ、パッケージデザイン、商品名、広報、商品改良までトータル的な商品プロデュース、コーディネートをしています。</p>
伊藤 直弥	いとう なおや	一般社団法人栗のなりわい総合研究社	<p>栗栽培、栽培研究、農産加工、販売、栗を活用した地域振興のための講習と講義の実践、栗以外の作物の栽培、加工、の研究と販売</p>

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
伊東 将志	いとう まさし	夢古道おわせ	<p>官民一体となった観光交流事業「夢古道おわせ」の管理運営。</p> <p>①地元集落のお母ちゃんをグループ化し、各地にチームを形成。 集落の食文化の伝承をテーマにランチバイキングによる交流人口増加を図る。</p> <p>②間伐材活用によるイベント「全国一斉100のありがとう風呂」を主催。 全国47都道府県400カ所以上の温浴施設で導入実績あり。 地域資源であり、後継者不足等で課題にもなっている一次産業の問題に独自の手法でアプローチし、全国各地より同時多発的にメディア掲載することを得意としております。</p> <p>また、都市部の若者×地域の漁村・農村集落をテーマに人材のマッチングも行う。 全国の自治体や商工会・商工会議所において官民一体のまちづくりや地域資源活用による取組みへの支援も行っています。</p>
伊藤 靖	いとう やすし	一般財団法人 漁港漁場漁村総合研究所	<p>①全国の漁場造成にかかる調査研究を通じて儲かる漁業への提案</p> <p>②全国の漁港漁村地域の活性化事例の調査を通じた、地域活性化事例の分析及び評価方法に関する取り組み</p> <p>③東日本大震災により被災した地域の水産業復興計画の策定に関する取り組み</p> <p>④岩手県大槌町水産業アクションによる漁業者学校の取り組み等</p>
井上 将太	いのうえ しょうた	井上地域づくり事務所	<p>○森林・木材を活用した新たな商品やサービスの開発及びマーケティング</p> <p>○中山間地域などでの体験型観光のプログラム及び仕組みづくり（廃校活用など）</p> <p>○住民参加のまちづくりに向けての場のプロデュース（ワークショップ運営）</p> <p>○中心市街地でのソフト事業のプロデュース</p> <p>○1次産業分野での環境教育のプログラム開発</p> <p>○各種セミナー・講演講師（講演実績：安芸市商工会議所女性部、香美市公民館、高知県婦人会、吉野町まちづくりセミナー）</p>
井上 俊彦	いのうえ としひこ	株式会社 コムブレインズ/ 株式会社ジャパブランド マーケティング	※海外向けブランディング（食・観光）※地域ブランド商品（食・伝統工芸品）の輸出促進※地域のインバウンド観光促進※地域における海外情報発信（SNS・メディア活用）※地域におけるDMO設立支援・地域プロデューサーの育成
井上 弘司	いのうえ ひろし	CRC地域再生診療所	<p>○全国各地にて、観光・ツーリズム・6次産業化・雇用創造・中山間地域振興等の講演、年間指導</p> <p>1. 地域診断の実施（地域課題の整理分析）および課題に基づいた人材育成</p> <p>2. 地域再生・地域振興に必要なアドバイスの実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グリーン・ツーリズム、ニューツーリズムの推進支援 ・DMO、観光まちづくり事業体の設立指導 ・地域再生の手法や地域づくり・人づくり ・地域資源開発（6次産業化支援） <p>食、文化歴史、直売所、農村レストラン、農家民宿、体験プログラム、ツアー造成指導</p> <p>有害鳥獣対策と活用</p> <p>3. 地域人材育成プロデュース</p>
井原 満明	いはら みつあき	㈱地域計画研究所	<p>①衰退する地域の再生を図るために、ライフスタイルの価値観を変えるグリーンツーリズムと地域の資源を地域で生かすエコミュージアムの融合展開（着地型観光）。②高齢者の手仕事に光をあてた「マイスター」制度の創設（年金＋α）。③高齢者が中心となって集落ワークショップを開催し、地域で高齢者を支えあう仕組みづくり（飯豊町で2009年～現在まで）。④ローカル線の活性化と沿線集落の再生を一体化し各駅を拠点に駅カフェの開催、駅から集落を巡るフットパスなどの地域づくり。⑤周辺地域（農村部）との連携を前提に住民参加協働型第3セクター「まちづくり会社」を設立（中心商店街活性化）。⑥2010年9月から長野県木島平村に招聘され農村文明塾の運営に取組む。首都圏等の学生との連携を図る農村版大学コンソーシアム、小規模自治体職員を対象に行政コンソーシアム、全国村長サミットの開催、住民の学ぶ場「農村学講座」等を実施（～2015年3月）。⑦佐渡市が提唱する「福祉版コンパクトシティ」の取組助言。⑧高齢社会に向けて「複数の高齢者が一人の若者を育てる」を合言葉に団塊世代が築いてきた「暮らしと生業の小さな社会資本」を若者に譲り渡す社会を目指した地域づくりを提唱。</p>
伊原 和彦	いはら かずひこ	E T C 教育旅行コンサルタント	<p>◆観光・交流（教育旅行や着地型観光誘致）観光協会・商工会・受入協議会等の教育旅行誘致アドバイザー 体験プログラムの開発・インストラクター育成 第一次産業を活用した民泊受入組織の人材育成・マーケティング支援指導</p> <p>観光振興・地域活性化をテーマとした講演・セミナーの講師 着地型観光（ニューツーリズム）の講師や商品造成・人材育成・支援指導</p> <p>◆地域産業・イノベーション・農商工連携 地域活性化支援アドバイザー 地域特産品の開発・食の開発やマーケティング支援指導</p>

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
今村 展大	いまむら のぶひろ	I・Sコーポレーション	沖縄県において地域産品の企画開発(沖縄県最優秀県知事賞受賞)、Eコマース、WEBマーケティング会社設立を経て、2005年沖縄県産業振興公社専門アドバイザー、沖縄県商工会連合会エキスパートに就任。その後、地域特化型グルメサービス「ちゅらグルメ」を創設。県民限定のお得なサービス「ちゅらとく」創設など観光媒体業において数々のサービスの立ち上げを行う。2011年からは更なる地域発展を描くビジネスを追求すべく、行政との連携を深め、2013年には日本初の取り組みである映画をツールとした地域活性化を沖縄県名護市名護大通にて実施。映画「がじまる食堂の恋」を製作、全国公開並びに全国の蕎麦屋にてレンタル・セル展開。その後は、マイナビとのジョイントベンチャーによる台湾香港向け観光媒体「珍遊沖縄」を創刊。2014年には株式会社全国商店街支援センター「商店街よろず相談アドバイザー」、経済産業省キーパーソンに就任する。2016年には、これまで培ってきたブランディングノウハウを体系化し、地域メディア及びブランド構築に主力をおいて活動している。
岩崎 徹	いわさき とおる	株式会社アイダ・アライアンス	①地域ビジネスの事業化支援：自ら地域での事業経験から、事業計画の策定、資金調達、マーケティング、PRなどを具体的にサポートし、資本参加して事業提携も行います。 ②地域コミュニティづくりの実践支援：地域活性化のきっかけとなるコミュニティ形成を、場やきっかけを地域住民とともにつくります。 ③地域人材の発掘と育成：地域を担う人材塾の総合プロデュースとワークショップのコーディネートなどを行います。(例：こしがや都市創造未来塾、行田みらい塾など) ④地域情報の発信：地域資源を発掘し、各種メディアで発信します。 ⑤マーケティング、PR支援：地域ビジネスのマーケティングやPR業務をサポートします。 ⑥地域事業に関するイベント等の講演、ファシリテーション、司会進行。
岩崎 亘	いわさき わたる	株式会社イージェイ	株式会社リクルート在籍時、クライアントである東証一部上場プライダル企業と、伝道師の地元であるみかん農家(実家含む)を繋ぎ、CSR×教育研修として、人手不足の農家の農作業の手伝いや、廃棄していた摘果みかんを使用した酢を開発し特産品として販売するというプロジェクトの推進を支援。 株式会社フォーバルでは、神奈川県伊勢原市にある「石田牧場」の6次化事業であるジェラート屋の立ち上げ～軌道に乗せるところまでのコンサルティングを行い、人気店に育て上げた。 農業法人である株式会社和郷では、都市と農村を繋ぐ「農園リゾート」という新しいコンセプトを打ち出した滞在型施設「THE FARM」や「THE FARM CAFE」等を立ち上げた。 現在は、廃棄するか二束三文で売られてしまう規格外農産物や未利用農産物を活用し、コールドプレスジュースという付加価値の高い商品を製造・販売している。熊本県合志市の農産物だけで作ったジュースを開発し、東京にある自社店舗でPRしながら販売することで、地域や地域の特産品の認知度向上に貢献するなど、トレンドに上手く乗せた地域活性化を行っている。
臼井 純子	うすい じゅんこ	オフィス・ウスイ/NPO法人日本風景街道コミュニティ	・地域活性化にかかわるさまざまな事業について、経営視点から事業の構築、プロモーション、継続的な運営手法についてアドバイスをおこなっています。 ・地域の資源「ひと、もの、金、情報」の有効な活用方法、人材発掘と育成など、その地域の特性を活かした地域活性化策(観光、産業振興、移住・交流など)を、地域の住民とともに、地域に根付くやり方で実施していくことを何より大切に、取り組んでいます。 ・地域の事業者の「家業」をどう「企業」まで底上げしていくか、経営のイロハについてわかりやすく指導・育成を実施しています。 ・地域リーダー、女性の起業化についての育成・指導・助言を行っています。
内田 勝規	うちだ かつのり	(株)オフィス内田	≪講演記録≫ 北海道経済同友会、中小企業家同友会、経営合理化協会、北海道庁、鹿児島県、各地商工会、帯広信金、北海道銀行、福岡銀行、楽天、目白大学など ≪講演テーマ≫ 地域ブランドについて、売れる物作りについて、食の可能性と課題、首都圏の顧客ニーズについて、北海道物産展に見る地域ブランド ≪マスコミ紹介記事≫ <テレビ> 日本テレビ『リアルタイム』『秒ヨミ』『ズームインスーパー』『ズームサタ』『スッキリ』 テレビ東京『ルピコンの決断』『日曜ビッグバラエティ』『グルメ魂』『戦士の逸品』『ワールドビジネスサテライト』 NHK『クエスタ』 BSフジ『プライムニュース』、NHK、テレビ朝日、TBS各番組 北海道各局『HBC』『STB』『HTB』『UHB』『TVH』 <新聞> 日本経済新聞、朝日新聞、日経MJ、北海道新聞、十勝毎日新聞 <書籍> フォーブス、週刊ダイヤモンド、日経トレンディ、到知、戦略経営者、スターズレポート、クオリティ 新潮社『旅』(連載中)

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
江口 健介	えぐち けんすけ	一般社団法人 環境パートナーシップ会議	環境分野の中間支援組織である地球環境パートナーシッププラザ（GEOC）の運営業務を中心に、環境NPOの基盤強化、企業のCSR、環境パートナーシップ形成等への支援を行う。 主として環境省事業である「地域活性化に向けた協働取組の加速化事業」の事務局業務を担当し、環境NPOと自治体、また必要に応じて企業や研究機関、学校、第1次産業などあらゆるステークホルダーとの協働体制構築の支援を全国各地で行ってきた。
大島 肇	おおしま はじめ	㈱アール・ピー・アイ	大学在学中より漁村や水産業を対象とした調査・計画に従事。㈱漁村計画研究所、財団法人漁港漁場漁村技術研究所を経て現職。地域経済の分析、産業振興とりわけ水産業や漁村振興に主に取組んでいる。水産業や漁村の振興のため、平成22年より、全国の漁業者等と共に、㈱エンジョイ・フィッシャーマンを設立、取締役として、都市漁村交流、食育、魚販売といったプロジェクトの企画、運営、調整にも取組んでいる。
岡崎 英人	おかざき ひでと	Okapi Service	経済産業省実施の産業クラスター計画の推進機関として、広域多摩地域（埼玉県南西部・東京都多摩地区・神奈川県中央部＝TAMA地域）が世界有数の環境に配慮したものづくりの新産業創出拠点となることを目標に掲げ、TAMAのポテンシャル（多数の優秀な中小企業や理工系大学の集積など）を活かして、産学官に金融を加えた人的ネットワークの構築・活用（TAMA協会には約150名の登録コーディネーターがおります。）と企業の新事業創出活動を支援する施策の立案・実行を進めました。特に、日本の他地域との「広域的な連携」や、市場に大きなインパクトをもたらす研究開発・技術開発につなげるための「大手企業との連携」、市場として魅力がある中国を初めとしたアジア、中小企業が拘りを持ってものづくりをしているイタリア、イノベーションのつぼとも言われるシリコンバレーの展開に力を注ぎました。 現在は、コンサルタントとして意欲ある中小企業の戦略的事業展開や自治体・支援機関とタイアップして地域産業活性化のご支援をしております。
尾形 恵子	おがた けいこ	有限会社ティップス	マーケティング、マーチャンダイジング、販売戦略や広告戦略を得意とし、現在は主に食品製造業、食品小売業、飲食業、旅館ホテル、農業法人等を中止に、①新商品開発や事業開発、店舗開発、②講演・研修業務（商品開発、マーチャンダイジング、マーケティング、事業計画作成、新規創業、販売促進等のテーマが中心）③経営改善や事業再生支援、④IT活用による販売や販促支援、広告戦略の立案や広告媒体の企画・監修等を手がけている。1998年に通産省（現経済産業省）の新規成長産業連携支援事業にて旧中小企業事業団の委託を受け、コーディネーターとして活動。2001年頃より、地方の中小・ベンチャー向け経営コンサルティング業務をメインにシフト。複数の公的支援機関等にて主にベンチャー企業や成長性の高い中小企業の新事業開発支援、アグリベンチャー支援、経営改善支援の他、公設試の研究評価や政府系の技術開発型事業の研究評価を手掛ける。2008年より3年間産学連携事業にて科学技術コーディネーター業務（H20年度文部科学省地域学術振興事業、H21年度文部科学省都市エリア産学連携促進事業、H22年度文部科学省地域イノベーションクラスタープログラム（ライフサイエンス分野））に携わった。
岡田 基幸	おかだ もとゆき	財団法人上田繊維科学振興会（AREC）	地方における新事業創出、新産業創出は、日本の急務の課題ではありませんが、未だ多くの課題を抱えているのが現状です。また、地方では、首都圏・大都市圏の成功モデルの単なる真似ごとだけでは解決できないことが多く、地方都市独自の事業創出、新産業創出への仕掛け・取組む必要があります。 上田市産学官連携支援施設（浅間リサーチエクステンションセンター（AREC））は、信州大学との産学官連携による新事業創出、新産業創出を目指し、上田市が文部科学省の研究交流促進法の認定と経済産業省の補助金を受け、2002年に信州大学内に設置した施設です。早や8年を経過し、地方都市発の数多くの新事業が生まれてきております。さらには、「設置以来満室」「地域中小企業180社超の有料制会員組織の構築」「事務局少人数体制」により、設置主体の公的支援にたよらない自立運営を可能にしております。「地方」という厳しい環境下ではありますが、人財をはじめとした地域の素材をじゅうぶんに活かし最高のパフォーマンスを出し続けています。
岡本 英志	おかもと ひでし	マルチプロデュースオフィスプラス	経営革新や地域振興・農商工連携などは、言葉による事業化プランは立てられるが、具体的に実行して実績を上げるのところまでたどり着ける事業者は多くない。机上のプランニングではなく、事業者と並走しながら、企業の潜在能力を引き出し、営業方法やプレゼンテーション方法などもプロデュース。地域資源と地域産業の連携を推進しながら、農商工連携・6次産業化などのアライアンスを通じて、地域産業の振興や街づくりに貢献しています。
小野塚 喜明	おのづか よしあき	しおざわ版ダッシュ村	四季を通して農業と観光の結び付きをツーリズムへのるしプロジェクトでは自立型事業へ産業廃棄物処理場計画から環境モデルへ各地へ講演活動
甲斐 寛人	かい ひろと	ランドブレイン株式会社	中心市街地商業活性化アドバイザーとして、中心市街地活性化基本計画の作成、中心市街地活性化協議会の運営に関するアドバイス等を行ってきました。また、中心市街地タウンマネージャーとして現場における実践的な活動も行ってきました。また、商店街活性化アドバイザーとして、商店街の活性化に関するアドバイスも行っています。 地方創生の人口ビジョン・総合戦略の策定支援や、総合戦略に基づく地方創生のための事業の立ち上げ支援に携わっています。

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
春日 隆司	かすが たかし	特定非営利法人しもかわ森林未来研究所(北海道下川町)	<ul style="list-style-type: none"> ○地方創生総合戦略 ○森林バイオマス活用による地域振興 ○二酸化炭素吸収・削減クレジット創造 ○環境未来都市 ○自然資本 ○持続可能な開発目標(SDGs) 準拠のまちづくり ○その他地域振興全般
片岡 由美	かたおか ゆみ	一般社団法人 東京都中小企業診断士協会 城南支部	<ul style="list-style-type: none"> ●「観光」に関すること→マップづくり、シンポジウムコーディネート ●「まちづくり」に関すること→ イベント企画・実施、まちづくりリークシヨップ ●「商業活性化」に関すること→ 商店街・個店コンサルティング、商店街青年部勉強会の実施、創業セミナー・相談、空き店舗対策 ●「食」に関すること→ 地域産品などの開発、人材育成(特に女性)
勝本 吉伸	かつもと よしのぶ	株式会社シンセニアン	<p>農産物直売所の出荷者や運営者、行政関係者を対象とした講演が年間100回以上に上る。また、販売額の低迷している直売所に対する経営改善や農産加工品の開発支援等を目的とした各地の直売所の訪問も、年間100か所以上を数える。</p> <p>講演や直売所の訪問では、直売所の責任者であった実経験と知識、農業改良普及員や農協営農指導員の経験を生かし、現場に密着したコンサルティング業務と身近で具体的な情報提供、さらには農産物の栽培対策と加工品の販促対策に重点を置いている。</p>
加藤 孝一	かとう こういち	カルネコ株式会社	<p>【理念】 『日本の森と水と空気を守る』</p> <p>【しくみ】 環境貢献プラットフォームEVI ※90の森林クレジット(県別カバー率81.8%) 預託</p> <p>【目的】 森と企業と消費者を結び、クレジットの流通促進、環境保護の支援を行う</p> <p>【事例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■規格外のりんごをドライフルーツ化。1袋1円が森林支援に! ■規格外の椎茸を環境貢献型商品としてブランド化 ■地域住民による電気代節約活動と地域経済の活性化を支援 ■国産材・間伐材の利用促進のための販売サイト構築・稼働 ■全国の森林保護を支援するキャンペーンの企画・実施(4年目) ■被災地の森林保護活動を支援する防災キャンペーンの企画・実施(3年間) ■お買い物決済1タッチ1円(SUIICA・PASMO)で森林保護支援! ■観光と環境貢献の融合=GREEN&CLEANリゾートの推進 ■CO2排出ゼロの道の駅・日野川の里にちなん(鳥取県日南町)のオープン準備~運営に参加。日本カーボンオフセット大賞農林水産大臣賞受賞を支援。
加藤 裕之	かとう ひろゆき	東北大学未来科学技術共同研究センター	<p>下水道が有する資源を農業に利用することは、下水道の有するイメージ等からなかなか難しいプロジェクトである。全国的なベストプラクティスを紹介することで、進めるための技術的手順、地域内のコミュニケーションの取り方、マスメディアの活用等を織り交ぜながら、次第に普及展開していく方法を理論化している。この普及理論は、下水道の農業利用にとどまらず、さまざまな地域活性化のためのムード作りにも役立つと考える。</p>
金井 藤雄	かない ふじお	生薬コンサルティング	<p>1、ベトナムにおける桂皮の栽培について事業化に成功し村全体の活性化につながった。2、ロシアのアルタイ州などにおいて甘草の野生収穫および栽培・集荷を行い地域の活性化へつながった。3、ロシアのイルクーツク州において麝香鹿の育成と集荷、狩猟許可に基づき麝香鹿確保、麝香牧場に放牧・育成し麝香を集荷するビジネスモデルの構築を実施した。4、ブラジルにおける牛黄・吐根などの生薬の集荷、日本薬局方による品質管理の指導等を行っている。5、三重県における薬用植物栽培事業について専門家として委嘱を受けて活動している。6、各市町村からの問い合わせをいただき丁寧に薬用植物栽培の相談を受けております。7、GMPコンサルタントとして生薬管理責任者の教育訓練、製薬企業の手順書・基準書作成、生薬鑑定・生産実務(鏡見等)、定量など分析実務、各種バリデーション実務を指導している。</p>
金丸 弘美	かなまる ひろみ	食環境ジャーナリスト・食総合プロデューサー	<p>2000年から食の地域づくりの取材活動。北海道から沖縄、海外までの調査を実施。実践活動として始めた地域の環境と食のテキスト化とワークショップを運動させてブランディングを行う手法は大きな評価を受ける。さらにマスコミにプロモーションをし出版活動を連携させ、運動と行動、実地活動と出版とのコラボレーションは大きな訴求効果が生まれ好評。これらの一連の活動と各地の地域づくりは著作『田舎力 ヒト・物・カネが集まる5つの法則』(NHK生活人新書)としてまとまる。本は総務省「地域力創造セミナー」で参加者の全国自治体の地域振興担当者全員に配布された。同時にメインの講演を行う。本は内閣府の食育推進専門委員会でも参考テキストとして配布された。『毎日新聞』の論説に取り上げられたのを始め有川浩さんのベストセラー小説『県庁おもてなし課』にも登場するなどマスコミ65媒体で紹介され、本の発売後、アマゾンの「地域経済部門」で1位となりロングセラーとなる。</p>
鹿野 美弘	かの よしひろ	NPO法人 薬草木を育てて地域産業と観光資源を作る会	<p>地域の生活の質の向上のため漢方医学の知識、経験を用い地域活性化のために下記の3点から取り組んでいる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 荒廃しつつある田園、中山間地区を薬草木の植栽により再利用、活性化を進め、平成27年度は薬木サンシュユの植栽に関し、農水省・薬用産物等地域特産作物産地確立支援事業の助成を受け、中山間地区の篤農家10数名と継続中。 2. 医師。薬剤向けの漢方臨床基礎理論講座(薬証会・15回シリーズ)を全国80ヶ都市で開催したが、NPO法人開設後5年間で岡山、徳島、松山で開催している。 3. 漢方医学を大衆向けにし、平成26年以降、地域住民に無償の薬膳学校を開き薬膳学、薬膳素材学を講義、薬膳実習を行い健康的で楽しく豊かな生活の普及を進めている。一卒業生は薬膳食堂を開設した。

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
唐橋 宏	からはし ひろし	(有) 會津きり屋	1991年に会津地方の幅広い関係者の参加による「会津そばトピア会議」を設立し、「日本一のそばの郷づくり」を合言葉に多彩な活動を展開することによって、会津そばの地域での広がりや全国的なブランド化に努める。また、そばの栽培面積も飛躍的に拡大するとともに、そばを核とした観光事業や地域間交流事業を積極的に展開。 1985年全国のそば振興ネットワーク「全国麺類文化地域間交流推進協議会(全麺協)」を発足、以後日本そば博覧会を各地で開催指導、同時に全国各地でそばによる地域づくりの指導を実施、また、素人そば打ち段位認定制度の全国認定審査員として各認定大会で審査員を務め、段位認定者は1万人を超えるまでに 全国各地の「そばによる地域活性化」の指導を実施中
川口 真	かわぐち まこと	標津町産業クラスター創造研究会	食中毒の風評被害によって、地域経済が危機に直面した事から、万が一にも食品事故を起さない取り組みとして、漁場・市場・加工・流通までを一貫した浜の高度衛生管理システムの「地域ハサップ」を樹立して、11年を経過。今や「地域ハサップ」は町の誇りや魅力として、鮭や帆立貝のブランド化に大きな貢献をしている。又、この活動を消費者に知らせるために、漁港などの生産現場を開いて消費者への「観光体験の拠点」としての活用を図った「標津版エコツーリズム事業」を創設し、鮭の荷揚げや水産加工などの産業現場体験や漁業者との交流を中心に、農業も含めた産業や生活、自然など町の足元にあった「何気ない地域資源」を「体験観光素材」として磨き上げ、町民ボランティア観光ガイドの養成と組織化の融合によって、今や20校余りの修学旅行が関東・関西方面から訪れる「目的観光地」として成長した。これは、生産現場を開くという「産業の観光化」によって、「観光が産業化」したものである。
河崎 妙子	かわさき たえこ	(有) 河崎妙子事務所	有限会社 河崎妙子事務所はコンセプト作り、店舗レイアウト、メニュー開発、スタッフ教育、広報活動など、1店舗を立ち上げるためのノウハウを提供。特に女性の立場から見た店舗のプロデュースやメニュー開発を得意としています。主な活動範囲は、 ①「食」に関すること→食材研究、商品開発、人材教育、料理講習会の実施等 ②「観光・交流」に関すること→コンセプトに合わせた商品開発、店舗の立ち上げ等 ③「学び」に関すること→食材研究、ワイン、チーズ、スパイス等の使い方や知識についての勉強会を実施、薬膳料理の勉強会等、各地の食材を生かした幅広い講習会を実施
河部眞弓	かわべまゆみ	音楽で地域を元気に！ KAWAVEX・石州犬研究会	1空き家活用・定住促進 2コミュニティ・ピザCCT開発支援 3地域マーケティング 4特産品開発 5地域のIT化促進、ネット通販 6交流促進、田舎ツーリズム、 これらの現場での活動を通して痛感する今後の地域振興課題や解決のポイントなどを歌詞にして楽曲を製作し「Kawavex」としてトーク&ライブ活動も行なっています。(例)UIタンゴ(定住促進はUIターンしたその後が重要)・空き家のロックンロール(全国820万個超の空家の嘆き)・このままでエンカ！(少子高齢化、人口減少、本当にこのままで、ええんか?)・地場サンバ(地場産業をマーケティングして地域を世界に売り込もう!)等
菅家 洋一	かんげ よういち	会津住建株式会社	◎平成22年：地元、会津のシンボル鶴ヶ城周辺の活性化の一環として、「アドリア北出丸カフェ」をオープンした。国内初のCLT工法を駆使し、自然との調和、省エネ、環境に最大限配慮し、癒しのカフェとして市民・観光客の憩いの場となっている。(平成24年 会津若松市景観賞、平成25年福島県建築文化賞特別賞受賞) ◎平成25年：福島県森林土木建設業協会の発起人となり、協会設立、会長就任。県内168社の会員とともに、県内森林土木事業の活性化、木材の新たな活用(CLT)の普及に取り組んでいる。また、地域資源を活用した「循環型社会の形成」に力を入れている。 ◎平成26年：林野庁「森林整備加速化・林業再生基金事業」に採用され、東日本初のCLTを活用した共同住宅を建設中(福島県CLT推進協議会管理事業者)。構造見学会、シンポジウム等を開催し、CLT普及に努める。 ◎復興庁「『新しい東北』先導モデル事業」において、CLTを活用したエネマネハウスを建設し、芝浦工大と共同で、省エネ(温熱)環境の計測を行い、将来スマートタウン構想実現を目指している。 ◎平成28年～現在：会津地域13市町村の産学官が一体となった、会津「The13」事業協議会を設立し、副理事長として森林資源を活用した地域創生に取り組んでいる。

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
北尾 洋二	きたお ようじ	株式会社ザメディアジョン・リージョナル／大分県立芸術文化短期大学 情報コミュニケーション学科	<p>「地域のために、地域を越えて」及び「新卒採用で地方創生」をミッションとした、新しいタイプの「創職」サポート・「ジョブメーカー」として日々活動しています。メディアのアレンジメントから出版・広告代理・編集プロダクション、まちづくりコーディネート・社会調査、ワークライフバランス、男女共同参画推進、障害者雇用支援、新卒採用支援に至るまで、地域活性化から企業活性化までをカバーします。「ご縁と感謝の経営」を軸にしながら、「ひとりひとり まちづくり くにづくり」をモットーに活動を展開しています。</p> <p>● 地域活性化と発展は「雇用・就職」から／学生、企業、地域社会の立場をしっかりと理解し、お互いの納得度を高める就職支援と企業の採用支援（採用ノウハウの提供、経営指導など）、そして地域コミュニティとしての場づくりを行なっています。（実績：文部科学省「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」、厚生労働省「地域人づくり事業」、島根県庁、山口県庁、大阪府大阪市、岡山県岡山市、山口県山口市・下関市・岩国市、島根県益田市など）</p> <p>● 地域資源の掘り起こしを「若者目線」で／アクティブラーニング（サービースラッシング）の手法を用いたフィールドワークで、地域の課題を若者目線で改善提案。「連携」という言葉の枠を越えた、地域づくりを展開しています。（実績：文部科学省「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」、厚生労働省「地域人づくり事業」、日本環境協会「いきものみつけファーム」及び「こどもエコクラブ」、各自治体「まちづくり講演会」、ソーシャルネットワーキングサービス（SNS／facebook、twitter、Instagramなど）を活用した情報発信事業及びイベント企画、SNSに関する利用実態調査、地域の魅力度調査、大分県竹田市・豊後高田市・姫島村、山口県山口市・下関市・宇部市、島根県津江市、高知県宿毛市、宮崎県串間市、山口銀行・山口フィナンシャルグループなど）</p> <p>● 地域の歴史をテーマとした研究活動、魅力発見及び研修事業展開／歴史街道・萩往還散策マップ実行委員会、夢街道ルネサンス、知覧研修、萩・松下村塾をテーマとした現地調査活動、月刊松下村塾・月刊高杉晋作・龍馬と長州等の歴史ムック発刊とプロモーション、日本風景街道などの調査研究及び産学連携のフィールドワークを実施しています。（実績：文部科学省「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」、鹿児島県南九州市、山口県周南市・萩市・山口市・防府市・下関市、宮崎県串間市など）</p>
北野 尚人	きたの ひさと	広島経済 大学経済学部 メディアビジネス学科	<p>・「地域絆と東京鮮度」をモットーに、マーケティングやコミュニケーションの知識・ノウハウを活かし、地方都市ならではの情報や時間面での真の豊かさの実現支援に向けて活動中。</p> <p>・今街中で起こっていることが分かれば、すぐに駆けつけられるサイズのコンパクトシティだからこそできること、ワークライフバランスの良さをどう生かすかを模索中。</p> <p>・博報堂のブランディング・ノウハウを活用した「地ブランド構築」支援活動も展開中。特に、最近では、農産物や水産物のブランド化、地方都市のブランド化、地方ならではの「食」のブランド化、等に関してもチャレンジ中。</p> <p>・「瀬戸内海」と「中国山地」「山陰地域」の魅力の棚卸しを、辛口の他所者視点に立って推進中。</p> <p>・大学へ移ってからは、マーケティング、コミュニケーション、メディア、広告、広報、ブランディング等を研究。</p> <p>・学生に対しては、従来の常識に捉われない柔軟な発想で、物事を見つめ考えることを指導。</p>
北村 省一	きたむら しょういち	株式会社サイテック	<p>【地域産業支援】 情報社会における企業のファインダビリティ（見つけてもらうこと）をテーマに、企業活動の存在を知ってもらう基盤づくり（Smart-PR等）、集客事業戦略を中心に取組んでいます。具体的には、チラシづくり、メディア活用を提案し、売上げ直結の支援を目指しています。</p> <p>【地域づくり（人材育成・産業振興）】 ・80年代後半、経済成長が鈍化する中、地域振興（人材育成、産業振興）等の観点から 公立等の大学づくりが熱心に行われてきました。福岡県、広島市、神戸市、滋賀県、兵庫県、和歌山県などで大学整備に向けた企画提案、構想づくりのお手伝いして参りました。中でも、広島市立大学や滋賀県立大学が設立され、地域に根差す先進的な大学となっています。</p> <p>【自然資源調査】 各地の河川整備に伴う自然環境調査、福岡の那珂川、和歌山の日置川（河川水辺の国 勢調査）などでは魚介類調査を行い、地域資源とその活用環境について明らかにし保全と創造の方向を提案しました。平成24年には高浜町の産業振興のため、青葉山の植物調査を行い、有用植物の選出を行い、植物資源を活用した事業提案をしました。</p>
衣笠 愛之	きぬがさ よしゆき	(有)夢前夢工房 庫大地の会 (株) 兵庫	<p>平成6年 ・農業規模拡大を決意する（専業農家へ）</p> <p>7年 ・経営改善計画認定取得する（認定農業者） ・無農薬栽培本格的にはじめる</p> <p>9年 ・生きがい農園を主催する</p> <p>11年 ・農業生産法人設立 ・夢そば作付け開始 ・小学校農業体験に関わる</p> <p>12年 ・青空市場「夢」設立 ・夢そば推進協議会を結成する</p> <p>15年 ・特定農業生産法人認定される ・夢そば乾麺完成 ・ひょうご安心ブランド取得（無農薬認定）</p> <p>17年 ・新規就業研修施設「夢工房」を設立する</p> <p>18年 ・環境創造型農業兵庫県モデル地区に認定される（10ha）</p> <p>20年 ・食育アドバイザー指導を始める ・第1回田んぼアートを開催 ・地元スーパーとの連携開始</p> <p>21年 ・姫路市夢さき夢のさとの指定管理者になる（夢やかた） ・農家レストラン「夢工房」オープン</p> <p>22年 ・産官学連携商品開発への取り組み、米粉食品指導員免許取得（財）日本穀物検定協会</p> <p>23年 ・6次化法認定（農林水産省）、食と地域の交流推進事業認定（平成23～24年）</p> <p>24年～25年 ・イチゴハウス（37a）、直売所「夢街道farm67」開設</p>

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
久野 美和子	くの みわこ	電気通信大学	グローバル経済・産業・社会の中で、日本や地域、個別の企業が生き残り、勝ち残っていくためには、大学や研究機関の優れた研究・技術成果を社会的価値に繋げていくことが極めて重要である。また、その方法としては、単独ではなく、多様な知識をもった人材や組織との連携・融合が不可欠の時代となっている。このため、プロデューサーの経験・ノウハウを活かし、1. 埼玉・千葉・茨城・群馬地域～東京(広域)の各大学や研究機関、支援機関と連携して、産学による共同研究開発～新事業創出のしくみづくり、個別支援を行っている。2. 特に超高齢化社会に突入している現在、ライフイノベーション(健康・医療・福祉・介護、食・農等)分野の共同研究～新商品開発・新事業創出が急務であり、重点的な取り組みを行っている。3. 日本の科学・技術の中心である「つくば地域」で、「科学・技術産業イニシアティブ」(グローバル・オープンイノベーション・プラットフォームづくりを目指す、科学・技術、産業分野の有志の会)を立ち上げ、様々な分野の専門家によるセミナーやプロジェクトメイキング活動等を実施中。4. NPO法人「イノベーション・ネットワーク」を有志で立ち上げ、若い・科学人材育成、「健康・食」の拠点作り等に注力。5. 地域活性化伝道師としても、1.～3.に関わり、地域や個別企業からの相談に応じてプロデュース活動を行っている。
久保 智	くぼ さとし	プロジェクト熊野	熊野市役所在職中は、地域資源を活用した特産品開発として「さんま醤油(魚醤)」や「どぶろく」など新たな特産品の開発に関わる外、直販や異業種連携、ローカルネットを活用した地域産品の新たな販路を開拓してきた。また、漁業の再活性化を図るため、安全安心の水産物生産や販路開拓についてハード・ソフト両面から取り組みを行った。個人の取り組みとしては、女性・中高齢者を社会資源と捉えたコミュニティビジネスの振興に関わる外、園芸による社会弱者の社会参加を支援する「くまの園芸福祉倶楽部」に参加してきた。1998年からは都市と大学と村とをネットワーク(村都連携・村学連携)する「プロジェクトくまの」の現地世話人として活動している。
古賀 方子	こが まさこ	特定非営利活動法人 全国街道交流会議	「全国街道交流会議」には、街道や歴史文化を活用して地域づくり、交流・連携に取り組む全国の自治体、民間団体、個人が参画している。全国大会の開催やまちづくり情報の共同発進などを通じてネットワーク化を進めるとともに、国、県、市区町村、住民間の連携をコーディネート。「往来再生」と「地域の自立」をテーマに、各地で官民協働によるみちおこし、まちおこし事業に取り組んでいる。
古川 充	こがわ みつる	古川行政書士事務所/地域経営コンサル 合同会社なるさ	・ 神奈川県庁から人口2000人の小さな君田村役場に転職する。 1996年から宿泊、温泉などを備えた道の駅整備による村づくりを担当し、15年間事業の責任者を担う。住民240人の第3セクター経営により、年間利用者25万人の地域振興の拠点施設として持続経営の展開の基盤づくりを行なう。経営に従事する中で、収益の一部を村役場に5億3千5百万円の寄付を行なう。これを、村は、将来の施設修繕に充てる基金化する。 事務局や責任者として仕掛け続けた、組織、集落が下記を選奨 ・ 2000年 地域住民が連携した農村振興が認められ「豊かな村づくり賞 農林水産大臣賞」 ・ 2004年 道の駅を核とした地域振興が認められ「立ち上がる農山漁村」に選定 ・ 2016年 中山間直接支払活動が評価され「中四国農政局長表彰最優秀賞」 ・ 地域振興組織が持続可能な取り組み方策の選択として、組織の法人化、組織運営の指導 ・ 第3セクター経営の改善支援 ・ 2004年 「地域産業担い手たち・地域ビジネスリーダー」(経済産業省 中国経済産業局)
小島 大	こじま だい	ささつな自治体協議会	全国各地の40数人の首長陣が集う、ささつな(ささえる・つながる)自治体協議会の議長・事務局としまして、会員自治体を中心とした住民の皆様のご生活に貢献・寄与する事を目的とし、都内の大学の教授陣や自治体職員と連携して、首長陣を中心としました交流促進のための意見交換会、勉強会、懇親会等の開催などにより、地域を超えた複数の自治体間で締結しました防災協定を主な活動として自治体支援活動に取り組んでおります。 同時に、会員自治体の道の駅等の商業施設を連携させること等により、スケールメリットを活用させることで、地域産業の振興、特産品の販売等による地域経済の活性化活動に寄与して参りたいと思います。また地元大学の教授陣と研究会を開催しての農業・教育分野を中心としましたまちづくり推進支援活動と共に、ささつな自治体協議会と連携しております大手企業陣の集い、ささつなCSR協議会の企業メンバーと協働することで、ささつな自治体協議会の会員自治体様を中心に多岐な分野において自治体支援事業を行って参りたいと思います。
小島 玉雄	こじま たまお	サン・アクト株式会社	・ 地域の貴重樹木や天然記念物の診断や回復を通じた地域資源の保全、地域活性化。 ・ サクラの樹勢回復による観光地の名所の保全、地域活性化。 ・ サクラでは、各種メディアへ取り上げられ、数多くの観光客が訪れる事例を多数有する。 ・ 樹木の診断技術開発を産官学連携で行い、地域再生に繋がる仕組みを多数構築。 ・ 京都大学等、大学と連携したプロジェクトを実施し、地域に貢献する仕組みづくりの構築。 ・ 各種メディアや企業との連携により、地域の再生・活性化に繋がる仕組みづくりの構築。 ・ サクラを活用した地域コミュニティの再生、活性化。 ・ 樹木再生だけでなく、対象地域の活性化・立ち上げ支援。

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
小島 由光	こじま よしみつ	株式会社スーパーソニック / 五島列島水産流通株式会社	第3次産業（流通・外食マーケティング）の目線で第1次産業、第2次産業を結びつける6次産業化を実践。地域の特産品を見出し、川下の流通戦略をもって生産物が流通し、地域活性化に繋がる仕組み構築を行います。第1次産業・・・地域活性化支援事業 農産物・水産物のブランディング及び流通提案 第2次産業・・・地域特産品の消費マーケットニーズ、ターゲットニングを踏まえた商品開発提案 第3次産業・・・流通、外食事業コンサルティング、経営分析。●水産物（鮮魚）の産地直送の仕組み構築による目詰まり解消を行う。飲食店への直接流通によって生産者の収入高と購入者の仕入れコスト減を実現、また産地直送により最短時間で届くため鮮度保持が向上し、多くの水産物流通につながる。（五島列島水産流通）●地域活性化に伴う地元主体組織構築と特産品開発、ブランディングにより地産地消型消費構造から地産他消に拡大。地域の知名度向上と特産品販売増を実施。（久賀島ファーム）
古関 和典	こせき かずのり	株式会社JTBコミュニケーションデザイン	映画・映像を活用した地域活性化事業の推進。 （主な事業実績） ・クールジャパン推進事業（自治体連携により、アニメの「聖地」の中国へのプロモーションならびに誘客事業）経済産業省 ・映画「Railways」を活用した富山県のプロモーション事業（富山県観光連盟） ・映画「天心」を活用した映画連携復興支援事業（茨城県） ・映画「銀の匙」を活用した帯広市プロモーション事業（北海道帯広市） ・日台合作映画「南風」による愛媛県インバウンドプロモーション事業（愛媛県） ・連続テレビ小説「まれ」を活用した石川県・能登地方のプロモーション事業（石川県） ・ロケ地紹介アプリケーション製作事業（東京都）
後藤 健市	ごとう けんいち	スノーピーク地方創生コンサルティング株式会社	「場所文化」をキーワードに具体的な場の設定に関わり、地元の十勝・帯広では、北の屋台（2001）、スノーフィールドカフェ（2002）、東京では、場所文化フォーラム（2002）、とかちの…（2007）、にっぽんの…（2010）の立ち上げと運営に携わってきた。さらに、まちづくりのさまざまなアイデア実現のために会社・団体を複数設立し、場所の価値を生かした実践活動を行い、全国各地での講演や、地域の元気人材を巻き込んだ活性化事業に携わりながら、コミュニティビジネスやソーシャルビジネス創出の強化に取り組んでいる。また、2010年から海外での活動を開始し、シンガポール、ハワイ、そして極東ロシアなど、アジア&パシフィックエリアの地域との連携を視野に入れた事業に取り組んでいる。地域活性化事業以外として、障害理解とコンプレックスの自覚のためのプログラムを行っており、また、ポケットサイズのカラー点字器を開発し、「名刺に点字を入れる」ボランティア運動も展開している。（カラー点字プレートは98年度のグッドデザイン賞中小企業庁長官特別賞を受賞。）
後藤 卓治	ごとう たくじ	一般財団法人 漁港漁場漁村総合研究所	①全国の漁港漁村地域の活性化事例の調査を通じた、地域活性化事例の分析及び評価方法に関する取り組み ②漁港・漁村地域におけるエコ化に関する取り組み ③漁港における水産物の安全安心を確保する為の衛生管理に関する取り組み ④東日本大震災により被災した地域の復興計画の策定に関する取り組み ⑤災害に強い安全で安心な漁業地域づくりの為の防災・減災計画に関する取り組み ⑥子ども達に魚食を普及させるための取り組み
駒田 健太郎	こまだ けんたろう	コマケンラボ	2013年～ 会津の新しい地域ブランド「ハンサムウーマン」プロデュース（経済産業省補助事業） 2013年 会津地域の観光地域づくり事業プロデュース 2015年～ 栃木県鹿沼市「加蘇芸術村」プロデュース、アートディレクション 2015年～ 鹿沼市産梨「にっこりなし」の海外展開プロデュース 2013年～ 鹿沼さつき盆栽&組子細工の海外展開プロデュース（経済産業省クールジャパン事業） 2008年～ 鹿沼市観光ネットワーク計画策定、観光サインデザイン 2013年～ 岐阜県白川町エコツーリズム推進業務 2008年 岐阜県笠松町 リバーサイドタウン笠松計画（まちづくりマスタープラン）策定
小柳 繁	こやなぎしげる	農村環境保全・上三光清流の会／一重菊「花嫁」プロジェクト／NPO法人加治川ネット21	少子高齢化が進む農村を持続可能なコミュニティとして再生して行く取組みを行っている。そのために、地域資源を活用した交流体験の促進、集落情報の可視化と共有、食や歴史文化の見直し、共有活動による合意形成などに取り組んでいる。また、中山間地の鳥獣被害防止のためには、結果として集落環境の改善をする取組みが必要である。
小山 厚子	こやま あつこ	小山編集室	「市は出合いの場」を合言葉に、農家と食べ手 協働して運営する直売市活動「朝市 夕市ネットワーク」、地域の食と農を守る「鳴子の米 ロソクトク」、東日本大震災のよる 大津波で被害の大きかった南三陸沿岸漁村部の漁家と都市の食卓をつなぐ「婦人友 十三浜わかめクラブ」などの活動に関わる。
斉藤 俊幸	さいとう としゆき	イング総合計画株式会社	2003年関東学院大学まちなか研究室追浜こみゆに亭開設に参加（2003年）、有明高専現代GP事業推進（文部科学省2005年）、全国水産高校生徒研究発表大会四国大会で高知海洋高校うるめプロジェクト優勝支援（2009年）、国際教養大学生による高校生向け英語合宿開催（秋田県由利本荘市、総務省地域力創造アドバイザー事業2010年）、千葉県立松尾高校スーパーグローバルハイスクール「地域から考えるグローバル・エイジング研究」（文部科学省2015年）、大阪府立勢高高校スーパーグローバルハイスクール「国際協力の現場で判断力と実践力を培うグローバル人材研究」（文部科学省2015年）、地域活性化センター土日集中セミナー「魅力化による高校の生き残り」と地域活性化」主任講師

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
佐々倉 玲於	ささくら れお	一般社団法人いなかパイプ	高知県・四万十川流域に暮らしながら、「いなか」と「とかい」をつなげる事業開発&人材育成に取り組んでいます。海・山・川の一次産業の再生に向けて、農家さんや漁師さんたちとインターンシップ事業や起業家育成の事業に取り組んだり、商品開発や観光開発に関わるワークショップの企画運営を行っています。
佐藤 安紀子	さとう あきこ	NPO海のくに・日本	<ul style="list-style-type: none"> ・漁業と魚食文化について考えるシンポジウムの開催(1993年～) ・漁村の女性と都市部の女性の交流活動「浜のかあさんと語ろう会」(1996年～) ・小学生と漁村が交流する海彦クラブ活動(2000年～2011年) ・小学生が離島を取材するわは海の子活動(2012年～) ・水産の意義を伝える本の制作、発行「クジラから世界が見える」 ・モロッコからナミビアまで西アフリカ22カ国の女性漁業者ネットワークを対象に、日本のすり身文化を伝えるワークショップ活動を連続実施(2011年～)。アフリカ開発会議にもアフリカの女性たちとともに参加し漁業の重要性を発信。
佐藤 皓詞	さとう ひろし	有限会社日智(ニッチ)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域環境と住まい手ニーズをしっかりと検証したまちづくり計画の推進支援 ・地域ポテンシャル分析とともに、「住まい手ニーズ」と「主体者シーズ」の掘り起こし ・地域資源(人、もの、歴史、観光、文化、環境など)の開拓 ・まち機能(医療福祉、教育、環境整備、生活利便施設など)の配置とゾーニング計画 ・まちづくりの担い手人材育成・継続できるまちづくりの仕組みづくり指導 ・地域コミュニティ創出に向けたサービスや収益事業、施設計画事業などの指導 ・中心市街地活性化基本計画の推進におけるプロセスマネジメントの指導
澤崎 聡	さわさき さとし	澤崎聡事務所	行政・公共団体、地域企業を地域特性を生かした連携やゼロミッションなど発想の転換で取り組んでいます。農商工・観光・新産業を、歴史、まつり、食、文化を掘り起こし、地域のマインドを大切にアート・デザイン・ナレッジ・文化発想で事業化。オンリーワンの地域づくり、人づくり、ものづくりを展開。未来の主役、子どものための企画推進を実施。魚ブランド化や熊野古道宿泊、和紙復活、希少茶継続など地域文化経済への取り組みや、文楽世界遺産やロボカップ世界大会はじめグローバル戦略の現場経験から日本発プレミアムジャパン視点で事業戦略を実施。
沢畑 亨	さわはた とおる	愛林館	<p>1:食</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近所の素材を中心に加工食品(味噌、漬物、ドレッシング、クッキーなど)を製造販売。 ・近所の素材を活かした「ふるさとレストラン」を月2回開店し、高齢者の活性化に貢献。 ・水俣の素材を味付けした本格タイカレー・インドカレーなどのレストランを土日祝日に営業。 ・そば/うどん/豆腐/こんにやく/バウムクーヘンを2時間で作る体験教室。 ・家庭料理を持ち寄り、食べる「家庭料理大集合」を10回開催。集まった料理約700種はデータベースとしてまとめた。 <p>2:環境学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアと植え、草刈り・つる切りを行った21haの「水源の森づくり」。 ・棚田25aで香り米を耕作。50aの草刈りを山羊を活用して行う。 ・会費をいただいた会員向けに大豆を育て、収穫を配当する「大豆耕作団」森を棚田保全を行い、食育のプロを「棚田食育士」を養成し、屋根のない博物館「村丸ごと生活博物館」でグリーンツーリズムを行う。 熊本県「緑化功労者」、棚田学会「棚田学会賞」、総務省「過疎地域自立活性化優良事例」総務大臣賞など受賞多数。
椎川 忍	しいかわしのぶ	(一財)地域活性化センター ／(一社)移住・交流推進機構 ／日本創生委員会／地域に飛び出す公務員ネットワーク	人材育成と地域おこしをライフワークとして、土・日・祝日を殆どつぶして全国を行動し、支援活動や講演を行う。 地域に飛び出す公務員ネットワークを結成。これを応援する首長連合の設立を提唱。国際日本文化研究センターでは「森里海連携」の研究に参画。政策研究大学院大学とも連携。 日本創生委員会では、林業復活・地域創生推進委員会アドバイザーとして活動。 農村文明創生日本塾、やねだん故郷創世塾、葉っぱビジネス(株)いろどり、TOSS(まちづくり教育)、ふれあい囲碁ネットワーク神奈川(IGOコミュニケーションズ)、高知県の地域産業おこし、日本フットパス協会、東京おもちゃ美術館、全国各地の市町村職員研修所など数多くの活動と連携。羽黒古修験道山伏「永善」(五度位先達)、フルマラソン5時間、ハーフマラソン2時間10分の市民ランナーでもある。
柴田 敏郎	しばた としろう	独立行政法人 医薬基盤研究所 薬用植物資源研究センター	<p>現在、漢方薬など医薬品の原料となる生薬や薬用植物の供給は中国はじめ海外に依存し、自給率は12%になっている。近年、中国国内での需要の増加や物価の上昇の影響で生薬や薬用植物の価格が高騰し、安心・安全な国内産の生薬や薬用植物の安定供給が業界(需要者)から求められている。一方、地域活性化の一環として薬用植物栽培への取り組みを求める声が全国の地方自治体や農業従事者(供給者)から上がってきているが、医薬品業界の求める品目や品質及び価格情報が正しく伝わっておらず、また、種苗の確保や栽培の指導者が不足していることもあって需要と供給のマッチングが進んでいない。</p> <p>このような現状から、業界及び全国地方自治体からの要望をマッチングさせ国内栽培を振興、普及させるために、現地での栽培指導や助言を行う。このような活動を通じて、漢方薬など医薬品の原料となる生薬や薬用植物の安定供給体制を構築し、自給率の向上及び農業や地域の活性化に寄与することを目指す。</p>

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
島谷 留美子	しまたに るみこ	(株)東北地域環境研究室	各地の観光調査、道の駅など地域の交流拠点施設等の企画、計画づくりに関わっております。これまで岩手県平泉町の世界遺産登録に向けた観光まちづくり調査、宮城県大崎市、石巻市、秋田県横手市、山形県米沢市の道の駅建設事業、青森県東通村などの観光調査、農水産物直売所等建設計画などのお手伝いをさせていただきます。平成23年度には、東北7県（新潟県を含む）の農山村の女性起業家の動向を調査し、起業をめざしたきっかけ、困難にぶつかったときにどう乗り越えたのか、事業を継続する上でのポイント、これからの目標等についてインタビューを行ってまとめました。地域の皆様とともに考え、課題を解決していくことを心がけております。
志村 尚一	しむら しょういち	有限会社ウィルビー/株式会社源喜舎/劇団ぜんとうようくらぶ	「一人一人のキラめきが輝く未来をつくりだす」をモットーに、資源の発掘と活用の仕方、住民一人一人が人材（役に立つ人）となるような人材育成を、地域に密着して指導・アドバイスを行っている。これまで指導した地域の方々からは、「自分達が気づいてなかった地域の可能性に気づかされ、実践方法も具体的にアドバイスしてくれるので、確実に成果が上がる」との声をいただいている。 現在、岩手県西和賀町の産業公社・湯田牛乳公社のゼネラルマネージャーに就任し7年目だが、人材育成と、所得と雇用の確保を目的に、6次産業と相乗効果を生み出す協働という手段を用いながら、地元の資源を生かした産業振興を推し進めている。 平成23年から、三陸の震災被災地で地域コミュニティ再生・復興のための支援活動（延600回）を行っている。そのほかにも、全国各地で「6次産業化」「農林水産業」「教育」「福祉」「人材育成」など幅広いテーマで、年間100回以上の講演・研修を行っている。 また、自身が主宰する劇団『ぜんとうようくらぶ』は、「介護保険」「食農教育」「協働によるまちづくり」などを題材にした演劇を全国各地で多数上演。他にも、「市民憲章運動推進全国大会」「全国農業青年交換大会」「農山漁村女性の日記念の集い」などで、記念講演や演劇公演を行う。 平成25年から、岩手の銘柄豚「白金豚」の生産農場と連携する居酒屋『源喜舎』の経営を行い、県内の生産者と消費者をつなぐ6次産業化のモデルとして各方面から注目されている。 平成29年からは、行政や地域の依頼を受けて、「共生型地域コミュニティ」や「地域包括ケアシステム」の構築につながる住民の意識改革・行動改革を目的とした講演・研修も行う。 《※平成29年の取組概要は別紙参照》
新海 洋子	しんかい ようこ	特定非営利活動法人 ボランティアネイバース	中部7県で、持続可能な地域づくり、社会形成のための、行政、事業者、NPO/NGO、学識者等多様な主体の協働による「環境」「まちづくり」「サステナビリティ」「教育」を主なテーマとしたコンサルティング、マッチング等協働事業支援を行っています。
須川 一幸	すがわ かずゆき	東京富士大学/楠地域振興研究所/JEPCイベント総合研究所	昭和58年から地域に入り、地域資源の調査の現場で「地域の宝物」を再発見する活動を実践してきた。イベントによる地域活性化から入り、商店街振興、観光振興、農業振興、福祉や教育・文化の振興など地域のあらゆる分野の活性化に企画・計画～実施～検証～時代に合った計画に修正～実施～検証と継続的に地域と関わってきた。特に、宮城県西白河郡五ヶ瀬町については、グリーン・ツーリズムによる活性化にはじまり、商店街振興、観光振興、介護福祉計画、長期総合計画と町のすべての分野に関わり、町のシンクタンク的存在としての役割を担ってきた。その後、熊本県の農産物直売施設（道の駅物産館を含む）の立ち上げ、再建、運営指導などを行い、長崎・佐世保・雲仙アンテナショップ「キトラス」の販路拡大コーディネーターや福岡市商店街活カアップ支援事業の手伝い、JA熊本直売所の運営アドバイス、限界集落での高齢者による地域づくり活動支援等を行い、全国的には地域活性化センター「全国地域リーダー養成塾」の講師やNPO法人全国街道交流会議の理事として歴史街道市町村の街道を活かしたまちづくりにも参画している。また、JICAで中央アジアや中南米の行政研修の講師も務める。太宰府市では「米づくり隊」「カンボジアに井戸を掘る会」「東北の酒を飲む会」等地域づくりを地域住民と共に実践している。九州・沖縄地域づくり会議相談役にも就任した。
鈴木 邦治	すずき くにはる	一般社団法人 頑張る地域支援し隊	<ul style="list-style-type: none"> ・地域イノベーション創出による地域活性化及び人材育成、まちづくり ・自治体の広域連携による情報通信を用いた教育、介護、農業等の推進 ・新エネ省エネによる新産業の創出 ・地域資源を活用した6次産業の開拓 ・防災、減災を踏まえたまちづくり（スマートコミュニティ） ・道の駅やインキュベーション施設などの活性化 ・企業誘致・公募事業による実証実験や研究ほか

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
鈴木 達志	すずき たつし	NPO法人伊豆自然学校	地域コーディネーターとして、農山漁村の地域における資源を有効活用した、持続可能な着地型体験プログラムを開発し、地域全体を巻き込んだ観光プログラムを確立させている。 さらに、隣接市町との地域連携を図ることで、地域回遊も取り込んだ広域的視野の取り組みも行い地域活性化を目指す。 NPO法人伊豆自然学校を設立し、地域住民と観光客との接点となるビジターセンターを運営し、インストラクター人材育成から安全対策研修会、六次産業化支援など様々な企画を実践している。
善養寺 幸子	ぜんようじ さちこ	株式会社 日本農水産食品輸出貿易センター	《環境教育》 環境省「学校エコ改修と環境教育事業」のサポート本部。全国のモデル校を支援 《環境都市デザイン》 新潟県新潟市「西野・中野山サステナブルエコタウン構想（区画整理事業）」企画構想策定 《環境政策コンサルティング》 ・「クールシティ・エコシティ普及促進勉強会」、「ローカーボン地域づくり・まちづくり研究会」等、産官学連携勉強会企画 ・「内閣府社会起業インキュベーション事業」運営、アドバイス支援 ・産官民協働事業「エコビジネスの芽を見つけ、育てるコンテスト「eco japan cup」」企画・統括プロデューサー 《復興支援》 ・福島県双葉町平成24年度復興まちづくり計画策定に向けた「町民参加の7000人の復興会議」企画提案・実施 ・復興庁「復興ビジネスコンテスト「REVIVE JAPAN CUP2013」企画運営
曾根原 久司	そねはら ひさし	NPO法人えがおつなげて	限界集落になってしまった農村地域の耕作放棄地や森林資源といった農村資源の活用を、企業ファームという手法で、三菱地所グループなど多数の企業との連携で行うことによって、農村の活性化に取り組んでいます。また現在は、今までの活動実績を踏まえ、山梨のみならず、北海道、三重、滋賀、広島など、全国の農村地域の活性化の支援や人材育成の活動を行っています。
高橋 朝美	たかはし あさみ	一般社団法人環境パートナーシップ会議	学生時代よりグリーンツーリズムに携わり、有機農業が盛んな地域での農協職員経験を経て、2014年より現職。主に関東圏内で、地域の環境課題解決に取り組む様々な主体(市民団体、自治体、企業)をつなぐコーディネーターを担っており、協働取組やESD人材育成に関わる業務など、地域での環境課題解決に向けた取り組みを支援している。
高橋 肇	たかはし ただし	山口大学農学部	「小麦栽培から始めるパンづくり」～山口県産小麦粉を使った地産地消パン普及のとりくみ～ 山口県周南市で「自分たちで栽培した小麦を収穫してパンをつくりたい」という田舎好き、パンづくり好きの仲間たちとともに、石窯を使って作るオリジナルのパンづくりを研究してきた。10年間の研究を通じて、山口県のすすめる県産小麦を使った地産地消パン普及のとりくみにも協力してきた。小麦栽培、小麦粉の製粉、石窯の扱い、パンづくりなどの科学として演出し、大学の公開講座として市民に提供してきた。講座の受講生を介して仲間をひろげ、とりくみをすすめている。このとりくみは、過疎高齢化で崩壊しようとしている地域でのコミュニティ回復策の一例として農林水産業関係者から注目されてきたとともに、食育や食農教育の素材として環境教育関係者からも注目されてきた。
滝澤 恵一	たきざわ けいいち	中小企業診断士滝澤恵一事務所／(一社)長野県中小企業診断協会／NPO法人地域づくりクラブ	「自分を生きる、ともに生きる」をメインテーマに、ソーシャルビジネス、コミュニティビジネス、農工商連携、商店街や観光業者と農林漁業者の連携の支援。「暮らす、働く、生きる」「ゆらぎをつくる」「地域コミュニティ、ライフスタイルコミュニティ、ビジネススタイルコミュニティによりコミュニティを創る」「コミュニティとはともに生きていくと実感できる場であり、場とは時間と空間である」「地域の絶対的個性は歴史と文化であり、これを見つけ、活かし、育てつなげるのは人であり、人的文化である」などの視点から、現場でワークをし、「感じ、考え、動くこと」を伝えている。また、「地域づくりは経営である」「経営とは、心と頭脳、身体を持った人の行為である」という視点で支援を続けている。
竹田 純一	たけだ じゅんいち	東京農業大学／農山村支援センター	社会的協働による山村再生対策構築事業「山村再生支援センター」（林野庁） 里地里山保全方策の検討とモデル地域づくり（環境省） トキの野生復帰をめざした共生と循環の地域社会づくり（環境省、新潟県） 人と自然が織りなす里地環境づくり（農水省、環境省） アベサンショウウオの保全と地域社会づくり（福井県庁） 神奈川県里地里山条例検討委員、里地里山づくり事業、他（神奈川県庁） 日本の里地里山30保全活用コンテスト事務局（読売新聞、環境省） イオン里地里山保全活動（イオン環境財団） この他、エコスクール、再生建築の調査、水俣セミナー、市民政策提言フォーラム、かおり風景百選、星空の街あおぞらの街全国大会（環境省）
武田 昌大	たけだ まさひろ	株式会社kedama	◎秋田県北秋田市に会社を設立。少子高齢化日本一・人口減少率日本一の秋田の活性化をミッションとし奮闘。《農業活性事業》2011年、秋田県の若手米農家集団トラ男のブランディングとネット販売・飲食店への卸売・体験イベントなど独自販路の拡大。出荷量を初年度の60倍に伸ばし、全国に約3000人のファンを獲得。百貨店「高島屋」での販売や、無印良品のサイト販売などの企業コラボも多数実現。都内飲食店への卸売販売など販路開拓された。《古民家活性事業》2015年、秋田県五城目町にある築133年の茅葺古民家をリノベーションして会員制のゲストハウス「シェアビレッジ」をオープン。2015年、グッドデザイン賞ベスト100・特別賞地域づくりデザイン賞受賞。全国に残る古民家を村に変えることで都市と田舎を新たなつながりを拡大中。

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
太齋 彰浩	だざい あきひろ	デザイン・バル	民間の研究所で、海洋生物・生態学の研究者として藻場造成等の研究に従事。地域密着型の教育活動を志し、志津川町(現・南三陸町)へ移住。使われなくなった箱もの施設を再生し、住民も気付かない地域資源の掘り起こしと、体験学習プログラム開発により、学びをキーワードにした交流人口の増大に貢献。慶応義塾志木高等学校の研修プログラムやJSTの高校生サイエンスキャンプ受け入れなどで、年間2,500名ほどの教育利用を創出。地域の人材育成にも力を入れ、地元小中学校でのプログラム実施やエコツアーガイド等の養成を行う。東日本大震災で町が壊滅的な被害を受けた後は、水産業の復興に取り組むとともに、持続性な地域社会の姿を模索し、未利用資源を無駄なく使う「地域循環の仕組み」づくりに注力。
田島 信太郎	たじま しんたろう	田島山業(株)	「森づくり」「森林環境教育」等のプログラムは、森林と林業、山村のライフスタイルを都市部の人々に紹介することを目的としている。国土の3分の2を占める森林と、そこに住む人々の暮らしを国民はほとんど知らない。山村は過疎化を通り越して「限界集落」と呼ばれ始め、林業は既に「産業として成り立っていない」とすら言われている。これすなわち「国土の3分の2が危機的状況にある」ということだ。「助けてくれ」とは言わないが、せめて「警告を発する義務」はあるのではないか。林業を効率化することで外材に打ち勝ち、更に森林と共に暮らす魅力を紹介することで、山村は活性化すると信じている。
田中 淳一	たなか じゅんいち	一般社団法人ローカルソリューションズ	これまでの企業経営・新規事業企画・PR企画などの経験を活かし、少子化対策・移住定住・女性活躍等の分野に於いて、農業ICTやシェアリングエコノミー等の新しいテクノロジーの導入によって地域の女性を取り巻く社会環境を向上させ、旧来型の社会規範が根強い地域の「文化のスマート化」を推進するなど、地域の人口流出といった課題に対して様々なテクノロジーを複合的に活用する取り組みを支援しています。
田邊 寛子	たなべひろこ	まちひとこと総合計画室	<p><アドバイザーとしての取り組み></p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光：地形や境界など地理的な要素も地域資源ととらえ、歴史や産業と合いまったその地域らしい観光づくりを持続可能な仕組みづくりを視点にアドバイスをしている。 例) 長野県辰野町：横川溪谷地域資源活用観光モデルコースの住民の主体的な開発事業に講師として参画。 ・社会福祉：離島の福祉について、地域資源の活用し、障がい者や高齢者の「生きがい」「自立」「持続可能」を視点に場づくりの支援を行っている。 例) 鹿児島県徳之島：社会福祉法人の複数の施設の再編と改善を地域と連携した施設づくりのアドバイザーとして参画。 <p><コンサルタント・景観デザイナーとしての取り組み></p> <ul style="list-style-type: none"> ・景観デザイン：その地域の地域資源である風景は人々の暮らしと生業が根本にあり、ハードのデザインだけでなく、ヒト・コトづくりにつながる関係のデザインも同時にアドバイスしている。 例) 葛飾柴又帝釈天参道周辺：住民主体の景観づくりを2004年からまちなみガイドラインの作成やまちなみ協議会の運営を支援し、2018年文化的景観に選定。
種市 俊也	たねいち しゅんや	有限会社 食と地域・建築研究所	<ul style="list-style-type: none"> ・水産業をはじめ第1次産業を主産業とする地域における地域活性化や生活・産業基盤整備、災害からの復興の計画立案に、主に行政を支援する立場から関わっています。 ・第3者の計画技術の専門家として、地域の関係者の意向・アイデアの把握、地域の情報収集・分析、実現のためのたたき台案をつくり、意見交換を通じて合意形成につなげる裏方の役割を仕事としています。具体的には、①地域の特色の把握・確認、②資源の探索と活用のためのアイデア出し、③活用方策の練り上げ、④実現のための体制づくり、⑤支援方策導入を目論んだ事業化計画づくりをお手伝いしています。
田淵 正人	たぶち まさと	滋賀県愛荘町	<ul style="list-style-type: none"> ■観光振興・地域振興等に対する支援や指導、アドバイス <ul style="list-style-type: none"> ○観光地域づくり ○ニューツーリズム・着地型観光・体験交流型観光 ○観光振興計画・観光ビジョン等の策定 ○観光振興・地域振興・人材育成等の講演会や研修会、セミナー等の講師 ○プラットフォームや広域連携等の仕組み作り、強化等 ○人材育成(担い手・コーディネーター)や農家民宿開発等 ○着地型旅行商品や体験交流プログラム等の商品造成 ○第6次産業化、農商工連携 ■まちづくり・地域活性化・地域再生 <ul style="list-style-type: none"> ○地域活性化支援アドバイザー ○地域資源活用アドバイザー

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
玉田 樹	たまた たつる	株ふるさと回帰総合政策研究所	<p>○「ふるさと回帰を促進する仕組み」の提案と支援 遅々として進まない“地方創生”に対して「地方創生 逆転の一打」を出版し、国は「公助」づくりに躊躇があってはならない、ということを書きました。地方からの声が上がることが期待します。</p> <p>○「ふるさと起業」の支援 “東京で雇用されているより田舎で生業をつくりたい”とする人が30%を超える時代となりました。このための起業研修や起業の立ち上げの支援をしています。</p> <p>○「空き家の市場化」の支援 “空き家が14%ある”といえども、市場に出てくるのはわずか数%にすぎません。田舎の空き家所有者の6割は大都市に住んでいるので、これに働きかけるプロジェクトを提案・支援します。</p> <p>○「“企業人”の誘致や城下町の形成」の支援 これまでのように企業を誘致するのではなく、“企業人”を誘致する時代となりました。この方策について研究を進め、具体的な支援をしています。</p>
都築 富士男	つづき ふじお	株式会社都築経営研究所	<p>●雑誌「農業応援隊」の発行</p> <p>●講演活動 行政、金融機関、企業、農業、各種団体など 北海道から沖縄まで全国各地で講演活動</p> <p>●地域活性化活動 顧問先と一緒に地域活性化の取組活動</p>
刀根 浩志	とね ひろし	観光ビジネス総研	<p>平成28年度事業紹介</p> <ul style="list-style-type: none"> ・沖縄県 「沖縄観光課題解決プロジェクト」アドバイザー ・京都府、兵庫県「山陰海岸ジオパークセミナー」講師 ・和歌山県市町村組合 職員研修会 「わがまちツーリズム創造セミナー」講師 ・農山漁村活性化支援人材バンク「地方創生セミナー」講師
土肥 健夫	どひ たけお	株式会社 事業開発推進機構	<p>一般的な商業集積、観光施設作り等に加えて、事業化・収益化が難しいと考えられている、以下のようなソフト事業の自立的な事業化に取り組んでおります。取り組みの“事業としての仕立て”を最も得手としております。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・御当地検定： 明石タコ検定(兵庫県明石市) ・食によるまちづくり： 「鍋焼きラーメン」によるまちづくりと「浪花麺だらけ(大阪市)」、「新横浜ラーメン博物館(横浜市)」への出店支援(高知県須崎市) ・観光案内人、各種アクティビティ ・インストラクター等のプログラムを絡めた、伝統的建造物群保全地区における漁家民宿整備(京都府伊根町) ・地域活性化と運動したスポーツ・マネジメント(石川県金沢市等)
富田 宏	とみた ひろし	株式会社 漁村計画	<p>漁村・漁港に係る地域振興計画や中小漁村を中心としたまちづくりに関するコンサルタント活動を中心に、大学などの研究者や現場でのシンポジウムや住民との膝詰めのパネルディスカッション、雑誌・著作等を通じて漁村の地域振興に関する提案及び具体的な直販・交流施設等の企画・基本・実施設計などにも取り組んでいる。</p> <p>日本大震災以後は、ボランティアによる被災漁村復興支援活動と共に、主に水産庁、市町村委託による漁村復興計画策定と並行して、大学、各種学会他のシンポジウム等に積極的に参加、発言を続けている。また、最近では、水産庁の主要施策となっている「浜の活力再生プラン」の策定について、それぞれの漁協等を中心とした再生委員会の活動の相談に応じ、プラン作成を一過性の書類作成に終わらせるのではなく、息の長い漁業・漁村づくりにつなげるための助言・支援を行っている。</p>
富山 俊二	とみやま しゅんじ	黒部都市漁村推進交流協議会	<p>漁業が持続可能な産業として適切な資源管理をはじめ漁場管理をしていき漁村を残すためには漁家所得の向上対策必要との観点から、流通改革が必要である。くろべ漁協では漁業者、漁協が直販施設を通じて消費者のニーズを直接把握し、魚だけではなく漁業や浜の情報、そして食文化を発信しながらファン作りに取り組んできた。特に魚は勿論、漁協女性部が取り組んできた一夜干をブランド化し、多くのファンを作り上げた。さらに定期開催を含めて年間20回以上に及ぶ料理教室、一夜干教室を通じ魚食普及を続けてきた。又、ボランティアガイドとの連携による漁村の町歩き、市内企業との産業観光との連携などを行うとともに着地型観光商品の開発など交流人口を増加させてきた。漁協が取り組む六次産業が鉄道も通らない町を年間25万人が訪れる町へと変化し、地域の課活性化が進んでいる。</p>
豊岡 和美	とよおか かずみ	一般社団法人徳島地域エネルギー)	<p>再生可能エネルギーを活用し、地域の経済循環をつくるためには、地域が主体となつての事業化が必要です。そのためには、基本情報を精査し、資金を調達し、事業化できるまでを徹底的に支援する必要があります。特に大切なのは事業の採算性の確保と、事業の利益を地域の活性化にどう役立たせるかということです。地域が自主性を持って事業が出来るようになるように、地域に寄り合い、伴走できるアドバイザーをめざして取組を進めています。</p> <p>(1) 再生可能エネルギーを事業化する取組を支援します。 (2) 収益の地元還元型事業の総合的企画策定を支援します。 (3) 自治体と連携し、地域の問題解決に資する取り組みを提案します。</p>

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
長岡 力	ながおか つとむ	株式会社リンクアンドイノベーション	<p>地域と中小企業のイノベーションを目指す経営コンサルタント。</p> <p>平成27年度の主な活動実績</p> <p>1. 特定非営利活動法人への支援</p> <ul style="list-style-type: none"> 特定非営利活動法人グローバル・ヒューマン・イノベーション協会（東京都渋谷区）、特定非営利活動法人グローバル新世代イノベーター育成協会（東京都渋谷区）、特定非営利活動法人 スクール・アドバイス・ネットワーク（東京都杉並区）、特定非営利活動法人 ピアサポートネットしゅや（東京都渋谷区）が行う各種活動の支援 <p>2. 中小企業経済団体への支援</p> <ul style="list-style-type: none"> 群馬県商工会連合会、沼田市東部商工会（群馬県）、高崎市榛名商工会（群馬県）、昭和村商工会（群馬県）、片品村商工会（群馬県）、群馬伊勢崎商工会（群馬県）、前橋東部商工会（群馬県）、長野原町商工会（群馬県）、みえ熊野古道商工会（三重県）、南あわじ市商工会（兵庫県）等が実施する事業支援 <p>3. 大学への支援</p> <ul style="list-style-type: none"> 青山学院大学（東京都渋谷区）、別府溝部学園短期大学（大分県別府市）、大分大学（大分県大分市）が実施する各種事業への企画段階からの参入支援 <p>4. 中小企業への支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ものづくり製造業等への経営戦略構築、経営革新計画、ものづくり補助金、持続化補助金策定支援 <p>5. その他</p> <p>小規模事業者持続化補助金事業書審査委員、6次産業化プランナー、東京商工会議所エキスパート、ミラサポ専門家他</p>
中川玄洋	なががわげんよう	特定非営利活動法人学生人材バンク	<p>特定非営利活動法人学生人材バンク</p> <p>(1) 大学生ボランティアを継続的に農村集落へ派遣</p> <p>平成14年より農山村ボランティアとして大学生を年間30地域、延べ500名/年派遣しています（農村16きっぷプロジェクト）。その中から、大学生が地域で企画を実施したり、田んぼを借り生産から販売までを行なう三徳レンジャープロジェクトも生まれています。</p> <p>(2) 若者の移住、起業支援</p> <p>鳥取大学卒業生が集落へ移住し農業後継者になることや、起業支援、就職支援を行なっています。2015年より、地域おこし協力隊後方支援を、株式会社鳥取銀行と一緒にこなっています。</p> <p>平成25年から「全国地域仕掛け人市」という求人イベントを実行委員会形式（事務局NPO法人ETIC.）で行ない、地方と都市をつなぐ仕掛けとして継続中です。</p> <p>(3) イベントボランティアのコーディネート</p> <p>立ち上げ時から、鳥取県のイベントボランティアコーディネートの仕事も行ってきました。老若男女の市民参加の舞台を作る仕組みをお手伝いすることが可能です。</p> <p>(4) 中小企業向けの若者派遣プログラム</p> <p>長期実践型インターンシップ事業を活用し、1カ月から6カ月の大学生による中小企業の活性化事業を行ないます。また若手社員の異業種研修として、鳥取パラレル留学というプログラムも中小企業・県内金融機関と連携して実施しています。</p> <p>(5) 地域のつなぎ役、バランスをとる役割として</p> <p>大学生、行政、民間、NPO、住民などの参画の場づくりやサポートの役割を担っております。</p>
長坂 尚登	ながさか なおと	豊橋屋 / WE LOVE MIKAWA	<p>愛知県豊橋市の商店街マネージャーとして、まちなか活性化のために奔走。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■「豊橋まちなかお店マップ」「豊橋まちなか看板娘マップ」の作成 ■空き店舗を改修した交流拠点「花園ベース：HANACOYA」の設置、運営【グッドデザイン賞2014】 ■空き店舗・空き家見学ツアー ■「豊橋に日本一の図書館をつくらうプロジェクト」などを実施。地元の学生や若手社会人らを、戦力的に活用し、成果を上げている。 <p><経歴・実績></p> <p>H21農水省： 農業を通じた日系ブラジル人青少年と地域社会との共生プロジェクト（豊橋市）</p> <p>H20, 21内閣府、H22, 23総務省： 高齢者対応の長期滞在旅行の立ち上げ（沖縄県久米島町）</p> <p>H19経産省、H20全国商工会連合会： 食物アレルギー対応旅行の立ち上げ（沖縄県久米島町）</p> <p>その他、国内消費財メーカーなどBtoC企業へのマーケティング調査多数。</p>

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
中澤 さかな	なかさわ さかな	道の駅/萩しーまーと	<ul style="list-style-type: none"> ●郷土料理遺産の活用プロジェクト(鳥根県隠岐の島町 2012～) ●久礼大正町市場を中心とした漁師町の再生(高知県中土佐町 2013～) ●道の駅整備計画基本構想策定(京都府宮津市2013～) ●水産物直売施設の整備検討(熊本県芦北町2013～) ●道の駅整備計画(第二期)基本構想策定(秋田県にかほ市2013～) ●直売施設整備計画 基本構想策定(秋田県羽後町2014～) ●直売施設整備計画 基本構想策定(宮崎県延岡市2014～) ●水産加工&直売施設整備計画(高知県奈半利町2014～) ●地域食資源の開発(秋田県男鹿市2015～) ●地域活性化拠点施設の整備計画(沖縄県うるま市2015～) ●地域食資源を活用した観光開発(三重県尾鷲市2015～) ●地域水産資源を活用した特産開発(長崎県長崎市2015～)ほか
中島 淳	なかしま じゅん	㈱カルチャーアットフォーシーズンズ	<p>活動のミッション：日本の地方により多くの「挑戦」をつくること～主体(当事者)と仕組みづくり～</p> <p>観光まちづくり、特産品づくり、移住促進、集落自立化、地域運営・経済事業、地域おこし協力隊サポート、地域の高校魅力化サポート、ローカルベンチャー支援等。 分野は幅広いのですが、全てにおいてその「主体」づくりに注力しています。「誰が」それをを行うのかを決めるプロセスを省くと、仕事は楽になります。その取り組みは継続しません。</p> <p>毎年全国10ヶ所ほどでお世話になっておりますが、いずれの地域も3年間ほどのミッションを負って、現地に入り込みます。特に最近集落の自立化(自立自治)に関する場面が増えております。とても難しい問題ですが、将来の地域の在り方が問われる重要な問題だと捉えております。</p> <p>【2016年度】沖縄県久米島町、宮崎県綾町・新富町、熊本県甲佐町、高知県香美市、和歌山県印南町、千葉県南房総市、茨城県常陸太田市、福島県塙町・南会津町、山形県飯豊町、岩手県金ヶ崎町、北海道平取町</p>
中西 準治	なかにし じゅんじ	元・近畿大学東洋医学研究所・植物センター	<p>農業振興のための施設を企画し、村へ提案をして教育実習の場、バイオセンターを設立しました。現在も花の種苗生産基地として運営されています。</p> <p>そこでは花の優良品種を組織培養で多量に生産して農家へ提供し、地域の産業振興に貢献しています。生薬メーカーや農家との共同研究で高品質の生薬を生産して商品化してきました。薬草の栽培を普及させる目的で、ハーブや薬草の苗を生産して大手市場を通して提供してきました。海外に於いても韓国、中国、マレーシアなどの大学や研究所、そして企業へ薬用植物などの有用作物を組織培養で大量生産する技術を指導して、種の保存や大量生産に貢献してきました</p>
中坊 真	なかぼう まこと	NPO法人九州バイオマスフォーラム	<p>NPO法人九州バイオマスフォーラムは、バイオマスの普及啓発事業、地域モデル事業としてバイオマスの利活用事業、コンサルティング・講師派遣・バイオマス製品の普及事業を行っています。特に草本系バイオマスの収集運搬・利活用技術に関して、ノウハウを持っています。</p> <p>バイオマスの普及啓発事業としては、テレビ熊本と連携してH19年度からバイオマスをテーマにした55分番組を制作・九州一円に放送しています。また、BDFカートやミニBDF精製プラントを使って、小学校でバイオマスをテーマにした環境教育を行っています。</p> <p>木質バイオマスに関しては、薪・木質ペレットストーブの普及啓発や、薪・木質チップの製造・販売支援、木質バイオマスボイラーの導入簡易診断などを行っています。</p> <p>2016年4月に発生した熊本地震では、震災により発生した解体材などの木くず処理のコンサルティングを行いました。また、災害支援ボランティアのコーディネートも実施しました。</p>
中洞 正	なかほら ただし	(株)山地酪農研究所	<p>* 東京農業大学農学部在学中に、猶原恭爾(なおはら きょうじ)氏が提唱する山地酪農に出会い、直接教えを受ける。卒業後、岩手県岩泉町で酪農を開始。</p> <p>* 野シバと国産乾草主体の飼育、および通年昼夜放牧・自然交配・自然分娩・自然哺乳(産後2ヵ月程度)でノーストレスの健康な牛を育てる山地酪農と、その健康な生乳による乳製品の製造販売を組み合わせた「中洞式山地酪農」を確立。</p> <p>* 現在は、山地酪農コンサルタントとして活動中。これまでに自身の創設した中洞牧場以外にも北海道の美瑛ファームなど3～4件の牧場を手がけている。</p>

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
中村 健二	なかむら けんじ	三ヶ日町観光協会	平成20年3月、関東経産局・関東農政局より「三ヶ目のブランド化による廃棄ミカンを利用したベストの商品化」で地域産業資源活川計画に基づき第3号認定をされる。地元では、有名ブランドミカンとしてのステータスはあったにせよ、加工品が皆無であった状況を、このベストが変革を起こして百数十の商品が世に送り出されることとなった。一方で、この事業活動の地域還元の一環として、20代から70代までの有志を募り、まちおこし勝手巡「ステキみっかび発信プロジェクト(=SM⑥Pe:スマッペ)の発起人で事務局長として活躍。地元商工会を通じて、中小企業庁の中小企業庁の平成21年度地域資源・こ(無限大)全国展開プロジェクトに「三ヶ日町日本一のみかんの里全国展開プロジェクト」として誌定を受け、町民の意識を一つにするというフォーカスから、事業の中心的役割を担う。その後、専門学校バンタン映像映画学院(東京都)とジョイントし、外から見たわが町を映像化しようと、自主製作の短編映画三部作の制作指揮の企画がスクートさせる。地域産業資源活川認定の5年開の事業期間が終わるのを受けて、町内の中小企業等の有志を集結させ、これまで築き上げてきた三ヶ目ブランドを新たに海外へ売り込むべく、「三ヶ目ブランド国際化推進協議会(会長職)」を立ち上げ、「農業産業化・地域活性化を実現する『Mikkabi』ブランド海外展開プロジェクト」に取り組むこととなる。このプロジェクトは、中小企業庁のJAPANブランド支援事業に採択された。2012年夏には、浜松市「みんなのはままつ創造事業」に採択されて、第二次大戦の切り札として陸軍が秘密裏にわずか2輛しか生産されなかった四式中戦車チトが、地元浜名湖に隠され沈められたという言い伝えから、「幻の戦車発帽プロジェクト」を立ち上げて、ソーシャルネットワーク(・cebook)を駆使して全国に発掘りレポート情報を発信している。2013年より、中南米日系農業者交流促進事業の実施委員も務める。
中村 哲雄	なかむら てつお	一般社団法人葛巻町畜産開発公社	平成24年1月22日農林水産省東北農政局主催の農山漁村の地域活性化シンポジウムのパネラー、地域活性化講演実績、北海道東川町、七飯町、宮城県北6町の議会議員、涌谷町、山形県山形市、最上町、東京目黒区めぐろシティーカレッジ。大学関係では、お茶の水女子大学生、岩手大学生8回講義。葛巻町に來町した沖繩県名護市議員、北中城村議会議員、千葉県印旛郡議会議員、早稲田大学院生、明治大学生、日本大学生、東北学院大学生などに地域活性化について講演。平成25年は山形県最上町、宮城県涌谷町、岩手県岩泉町、奥州市、神奈川県川崎市、東京都稲城市などで地域活性化について講演。平成26年は東京都、金沢星陵大学などで講演、来日したフィリピンの農林省若手職員に地域開発と地域活性化について講演、現地指導など
芳賀沼 伸	はがぬま しん	株式会社芳賀沼製作 / NPO法人みなみあいづ森林ネットワーク (株)マストロ・ジェベット / NPO法人南会津はりゅう里の会	<p><株)芳賀沼製作 概要></p> <ul style="list-style-type: none"> 国内でログハウスの先駆者として、ログハウス村「はりゅうウッド村」を35年前より建設し、現在98棟となる。 2011年東日本大震災後、福島県木造仮設住宅でログハウスでの仮設住宅の提案者メンバーとなり、600棟を建設する。 <p><NPO法人みなみあいづ森林ネットワーク 概要></p> <ul style="list-style-type: none"> 地元林業従事21団体(3森林組合含む)と木材(立木)の価格を守り、収入を増やす為、古くて新しい産業づくりを展開(素材での有効活用法)。 森林認証材の具体的な活用法を提案、実施(A・B材-縦ログ・家具、B・C材-日用品・玩具、C材-アロマ、薪利用) <p><株)マストロ・ジェベット 概要></p> <ul style="list-style-type: none"> 町内加工業者4社と都市在中デザイナーと組み、海外(ヨーロッパ・中東・アジア)を見据えた木製玩具の販売展開中。 <p><NPO法人南会津はりゅう里の会 概要></p> <ul style="list-style-type: none"> 地元住民と1ター・ニ地域居住者(土地を借地方式とした「はりゅうウッド村」の住人)による、山村での豊かな生き方・暮らし方の実践を現在進行中、事務局の役割をこなす。アロマ事業を開設し、地元住民が採取した枝葉でオイルを精製し、出口販売先と共同で新しい職づくりを展開。 山村大学から継続している野外教育事業を発展し、広大なフィールドを活用した新たな観光産業を展開。
白田 典子	はくた のりこ	(有)良品工房	「いいものプロジェクト」を推進。消費者の声をメーカーや小売店に届ける仕組みをつくり消費者が選んだおすすめ商品・訪れた地域で見つけた商品をセレクトし販売している。地域商品のブラッシュアップや新商品開発へのアドバイス等も手掛ける。 【平成23年度実績】岐阜県飛騨市神岡町 【平成26年度実績】富山県小矢部市
蜂谷 潤	はちや じゅん	一般社団法人 うみ路 / 合 同会社 シーベジタブル	2013年3月、高知県東端に位置する室戸を拠点とした地域の会社「一般社団法人うみ路」を設立。 主に地域内で生産される農産品や水産品を使用した加工品の開発や販売、地域内外の交流イベントや勉強会の企画、カフェの運営など地域に根ざした事業を多岐にわたって展開している。 2016年4月、海藻の陸上用養殖を中心に行う合同会社シーベジタブルを設立。 室戸市の特産品である海洋深層水で海藻の陸上養殖モデルを確立。その後は日本各地で展開できるよう、海水井戸水(地下海水)を活用し海藻やアワビ類の陸上養殖のモデル作りを行ってきた。現在はこのモデルをもとに、福祉作業所や高齢者等、成立させることが難しい事業者とパートナーシップを組んだ日本各地での事業モデル作りを行っている。
花井 恒三	はない こうぞう	奄美のトラさん	①奄美と本土・沖縄の人材マッチング(ヒューマンネットワークウェア) ②本土・沖縄から奄美に住みたい・投資をしたい・貢献したい方、奄美を調査・研究・提言したい方、奄美で自分を極めたい、表現したい方(マドンナ、男性含む)への奄美の入口案内ボランティア。

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
林 浩志	はやし ひろし	一般財団法人 漁港漁場漁村総合研究所	近年の食品に関する様々な問題、0-157や産地偽装など食品の安全・安心に対する不安が高まっている。一方、忙しい社会生活、長引く不景気、ファーストフードやコンビニエンスにより家庭で料理をしない人々が増えてきている。さらに、魚介類についてはその数は多い。このため、わが国が培ってきた食の文化が薄れ、食育（魚食）といった活動が行われてきている。このような状況にあっても家庭や外食・中食産業、食育の場へ安全で安心な水産物を提供するには、やはり漁港での衛生品質管理は重要あり、ここで品質が低下した魚介類は、その後回復することはない。このようなことから、水産物の衛生品質管理を軸に水産物の提供と一体となった地域づくりに取り組んでいる。
平野 龍平	ひらの りゅうへい	富士急行株式会社／一般財団法人コレゾ財団	<p>数々の地域活性化や観光振興のお手伝いをさせて頂いている内に、言うだけで何もしない人が多いこの世の中で、自ら考え、行動を起こし、真っ当で当たり前のことをごく当たり前に行っている人たちこそ、貴重で、真い存在であり、行動し続ける先にしか、結果は生まれず、成果は後からついてくるもの、ということに気が付きました。</p> <p>いろんな地域のさまざまな事例を拝見してきて、成功事例や素晴らしい取り組み、活動に唯一、共通しているのが、魅力的な担い手の皆さんの存在です。</p> <p>「COREZO（コレゾ）賞」表彰事業は、そんな方々が一堂に会して、ウマイ食を食べ、ウマイお酒を酌み交わしたら、きっとおもしろいことが起こるだろうと思って始めました。</p> <p>「COREZO（コレゾ）賞」は、「権威なし」「権威なし」、「名誉なし」、「賞金なし」の三拍子揃った「三なし賞」の上、毎年、表彰式は、受賞者のおられる地方で自主開催して頂き、旅費、宿泊費は、自腹、飲食も参加者の持ち寄りなのに、既に4回実施し、延べ300名近い表彰者と関係者、賛同者の交流の場にもなっています。</p> <p>案の定、日常、交流することもない、分野も業種も職種も違う多士済々な皆さんが一堂に会することで、思いもよらない化学反応が起こり、主催者も知らないところで、いろんなコラボや協働等、おもしろいことが次々に始まっています。</p> <p>自分のような若輩者が「地域活性化伝道師」に認定され、何かアドバイスするなんておこがしく、先達の皆さんに対し、失礼に過ぎると自覚していますが、「COREZO（コレゾ）賞」他を通じて、数多くの皆さんとのご縁と人的ネットワークだけは、有しており、「人」と「人」のご縁をつなぐ役割は果たせるのではないかと考えています。</p>
平原 秀則	ひらはら ひでのり	平原建設株式会社	<p>例えば沖縄の慰霊地に奉納された千羽鶴。実はその最終処分方法は自治体の大きな悩みです。そこで、千羽鶴を再生紙として甦らせ、ノートや名刺の台紙などに製品化して慰霊地の記念品として販売。これを発展途上国の子どもたちの教育に役立てられています。</p> <p>また、千羽鶴の解体、仕分け作業を障害福祉施設の利用者にお願いし、工賃の向上を担っております。さらには、沖縄や広島への修学旅行の平和学習プログラムとして、千羽鶴の解体・仕分け作業のボランティア活動を組み入れるなど、人と人をつなぎ、地域とつながる方法を考えて来ました。また被災地支援では、北海道等で産業廃棄物に過ぎないホタテの貝殻を、牡蠣養殖の採苗用に被災地の被災障害者施設で加工し、広島等の養殖地に販売する取り組みを進めており、被災地の障害者の就労支援を通じて、人と人とのつながり、人と地域とのつながりを再生することを目指しています。</p> <p>直近の事例としては、平成24年8月、北海道の北広島市で、障害者支援施設を経営する地元社会福祉法人の地域貢献をコンセプトに、北海道と広島の酒造協会の協力の下、銘酒の試飲会のイベント「北の酒祭り」を開催し、地域住民の絆づくり、地域活性化のお手伝いをさせて頂きました。</p>
福田 達男	ふくだ たつお	北里大学薬学部附属薬用植物園	国内で生産できる生薬を1種類でも増やすため、基原植物の生理・生態を明らかにし栽培技術の確立のための研究を行ってきました。また、生薬の基原植物の分類学的な検討を植物形態学や遺伝子、化学成分の3つの視点から研究し、基原植物の抱える様々な問題の解明に努めてきました。これまでに赤類生薬の基原植物、特にオオバナオケラの栽培技術の確立やタクシャの基原植物であるサジモダカの栽培を国内で初めて成功しています。
藤井 一郎	ふじい いちろう	四国大学 経営情報学部	<p>四国大学では、主として地域中堅中小企業のマーケティング戦略、経営戦略、ファイナンスの研究および講義を行っています。</p> <p>また、株式会社みどり合同経営では、以下を中心に活動しています。</p> <p>①地域活性化をもとにした、中小建設業や製造業・飲食サービス業の経営戦略、マーケティング戦略の構築・支援</p> <p>②地域の金融機関との連携による地域に貢献する中小企業へのサポート</p>
藤木 徳彦	ふじき のりひこ	オーベルジュ・エスポワール／日本ジビエ振興協会	<p>野生鳥獣を地域の資源として活用するために、商品力をつけること、販売の方法をアドバイスする。調理に携わるプロとして、魅力ある精肉の商品づくり、調理が難しい野生鳥獣をおいしく活用できる調理方法の講習、指導、野生鳥獣と地域の特産品を組み合わせた加工品の開発指導を行う。できあがった商品は地域のみならず、大消費地にプロモーションを行い、滞りがちな流通を開く。「信州ジビエ」の例では、長野県内のジビエを使い、長野県内の福祉施設で加工品を製造し、JR東日本エリアのエキナカの飲食店において開発した商品でのメニュー提案を行い、ジビエの加工品の流通を実現した。東京駅でのジビエ弁当販売や、都内レストランを借りての地域フェアなどで地域のセールスを行う。</p>

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
藤村 望洋	ふじむら ぼうよう	早稲田エコステーション研究所(ぼうさい朝市ネットワーク)	<p>災害を想定しながらも「美味しく楽しい」地域活性化活動「ぼうさい朝市」の仕掛け人。かつての北前船ルートでつながる港町をネットワークして、日頃から防災をテーマに活動し、いざというときの救援物資に見立てた特産品(美味しい救援物資)を全国各地から運び込み、地域住民が訓練を兼ねて設置したテントで販売する産直市「ぼうさい朝市」を開催。この仕組みを活用して、山形県庄内地方の特産物の大阪への流通コースを構築する「特産物のフルコースディナー」を開催(Ｈ23年度山形県鶴岡市と酒田市と大阪を結ぶ地域活性化伝道師活動)。</p> <p>「ぼうさい朝市ネットワーク」では、いざという時は混乱する被災地ではなく、安全な「隣」が拠点となって支援する仕組みを提唱。壊滅的な被害を受けた南三陸町「おさかな通り商店街」もネットワークに参加しており、その経過から、山形県酒田が「災害時の隣」となり、全国各地から酒田を中継基地として南三陸町へ救援を行い、第2段階で「復興市」を立ち上げ、第3段階で地方都市と南三陸を結ぶ地域連携による商店街再生のビジネスモデル構築を支援している。「復興市」はＨ23年度「地域づくり大賞」を受賞。Ｈ24年3月、全国からの被災地支援団体・企業と被災地の地元団体をつなぐコーディネート組織「一般社団法人南三陸復興まちづくり機構」を設立。漁業及び林業の6次産業化を全国連携で取り組んでいる。</p> <p>瀬戸内海は、エーゲ海やカリブ海に勝るとも劣らない歴史と風景と地域資源をもつ海洋観光の最適エリアである。しかしエーゲ海等で今や巨大な観光産業となっている小型船による島めぐりクルージングはほとんど行われていない。国際的な海洋観光産業を瀬戸内海に事業構築するために、瀬戸内海の島々のNPOや地元自治体や各種の専門家と連携して一般社団法人日本海洋観光推進機構を設立。</p>
藤原 一夫	ふじわら かつお	藤原コンサルティング	<p>中小建設業の経営革新、再生、新分野進出等、建設業関連専門の経営コンサルタントとして経営指導等を業務とする傍ら、中小企業診断協会東京支部の建設業経営研究会の代表幹事として、建設業経営の情報交換・勉強会を主催しております。</p>
船崎 美智子	ふなざき みちこ	ライフスタイル協同組合/(株)ライフスタイル研究所/NPO法人やまぐち県民ネット21/公益財団法人山口きらめき財団/山口県立大学	<p>得意分野は、地域づくりを生かしたワークショップのファシリテーターである。地域、行政、企業、大学とNPO等をつなぐための仕組みづくりや、協働事業への取り組みを実施。地域の資源を生かした「地域づくり」、女性の視点で商品やサービスを提案する「モノづくり」、若者の就職支援や企業の人材育成などの「人づくり」の活動をする「地域プロデューサー」として活動している。</p> <p>特に「農商工連携」や「6次産業化」の講師やシンポジウムのパネリスト、栄養士としての視点を生かして商品開発の企画・運営・経営戦略等の提案を行っている。また、最近では「協働のまちづくり条例」等の講演や協働事例の提供、中山間地域づくりなど広い分野で活動している。</p> <p>①6次産業化の取り組みと商品開発 ②まちづくり、地域づくりの実践ワークショップ ③商店街活性化のコーディネーター ④地域コミュニティの場づくり</p>
古庄 浩	ふるしょう ひろし	(株)古庄企画	<p>大手ホテルの総料理長、山形県庄内・食の親善大使、テレビ料理番組レギュラー出演、地域の食文化の講演会など経験豊富。</p> <p>「地産地消」。現在の主要流通ルートは、大量生産と大量流通を前提として組み立てられており、その中に小規模生産者も料理人の調理場も小規模販売者も組み込まれ、互いの連携や流通ルートを持っていない状況である。地産地消を、生産と販売だけの仕組みだけでなく、料理の現場と料理のノウハウと料理人のネットワークという視点を加えることにより、特にこだわりの小規模生産者に対して、生産方法や生産物の種類の考え方と新たな販路を協働で構築することが可能となり、商店街の店舗や飲食店舗は、大手スーパーにない独自色を出したメニューや品ぞろえが可能となる。地域の食材を使ってのフルコースディナー付き商談会の開催や、伝統的食材とその料理方法をプラスした直売所の運営などを通して、食材と料理と商店街が協働で行う地産地消の推進による地域活性化の取り組み。</p> <p>「新たな全国流通ルートの構築」。料理人の全国ネットワークの活用によって、料理人が推薦する食材を、料理人が推薦するレストランやスーパーで販売する、小規模な生産者と、料理人と、販売者やレストランの連携による新たな流通ルートの構築。「北前船ルートぼうさい朝市ネットワーク」の全国各地と連携する大阪圏のシェフを「蔵奉行」に認定し、ふるさと食材使った料理とその食材の販売を推進するシェフのネットワークを構築している(現在35名のシェフを認定)。</p>

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
星野 智子	ほしの ともこ	一般社団法人 環境パートナーシップ会議	<p>環境省と国連大学の共同事業である「地球環境パートナーシッププラザ」の運営業務に関わり、環境教育、持続可能な地域づくり、生物多様性保全、NP0活動支援、ボランティア活動の普及、地球規模課題の普及啓発など、環境政策コミュニケーターとして、多様な主体との対話づくり、パートナーシップ構築を日々行っている。</p> <p>地域における青年・女性の役割に重視しており、活動サポートに注力してきた。1994年に青年環境団体に開発したイベントごみリサイクルのためのボランティアコーディネートは今では全国で見られるようになった。現在では東京2020大会に向け、ボランティアにサステナビリティの視点を普及啓発している。</p> <p>安全な食の普及とエコツーリズムに関心があり、毎年田んぼに通い、生産者と消費者の交流の場を作っている。また仕事とプライベートで多くの農山漁村・島を訪れ、ヨソ者視点で地元住民との交流、地元産品の研究を各地で行っている。</p> <p>H11年6月地球環境行動会議主催 UNDESA共催「グローバル・コモンズ世界環境会議 '99」 企画・運営 H11年10月地球環境行動会議主催 UNFCCC/COP5 (ボン)でのサイドイベント 企画・運営 H12年環境省 国際シンポジウム「水俣病の経験普及セミナー」(ベトナム) 企画・運営 H13年環境省 国際シンポジウム「水俣病の経験普及セミナー」(タイ) 企画・運営 H14年8月ヨハネスブルグサミット NGOフォーラム 現地ブース出展・ワークショップ企画・運営 H15年地球環境行動会議主催 「エコユース会議」 企画・運営 H16 ドイツ日本学会(発表)日本の環境NGOについて(ミュンヘン) H19・UNUグローバルセミナー 講義(沖縄・神奈川)(英語) H20・G8洞爺湖サミット NGOフォーラム G8市民サミット 企画・運営 H21・大阪経済法科大学 講義(大阪)(英語) H22・CBD-COP10 UNU主催サイドイベント 里山知事サミット 企画・運営 H23・水銀条約政府間会合(INC2)環境省主催サイドイベント 司会(英語) H25国連大学グローバル・セミナー 2013湘南セッション H26・ESDユネスコ会議併催イベント UNU共催(11/12) 企画・運営・登壇</p>
細尾 勝博	ほそお かつひろ	地域再生研究所	<ul style="list-style-type: none"> ・都市農村交流を中心とした観光産業による地域づくりのコンサル・アドバイザー活動。 ・地産地消の仕事人として直売所の意義・目的・条件【12か条】・使命・価値観や共通課題についての解決方法など助言・指導。 ・ボランティア・プランナーとしての6次産業化の認定承認や意欲的な事業推進による所得の向上や地域活性化推進などの指導。 ・豊かな自然や景観を持つ中山間地域での「2地域居住」推進・都市住民の「真の新しい心のふるさとづくり」・地域資源を最大限に活用した「ファン・リピーター作り」の助言・指導。 ・共生対流の交流イズムを駆使しながら「定住化促進」「地方創生」の道を「地域主体の交流づくり」を構築するための助言・指導。 ・都市農村共生・対流総合対策交付金の対象地区8地域のハード事業、ソフト事業の指導・助言。 ・全国各地からの要請により、アドバイザーとして年間40回以上講演及びワークショップ・シンポジウム等をコーディネーターやポトムアップ型町づくりを進めている。 ・国のアドバイザーや県の自治研修所の講師なども務めている。 ・「活性化伝道師」として、企業誘致を行うことによって新たな「都市・農村交流」が図られ、仕掛け作りを間違わなければ、永年続く事が認識できた。今年、2社の大阪企業を誘致し、OB(企業の都市住民)、地元、現企業との交流会を開催し、農村の良さを売る事が出来た。来年は、企業を通じた体験交流活動を盛んに進めていきたい。 ・近畿圏内の大学生と提携を行い、学生達の知恵袋と地元住民の体験力、行動力などによってそれぞれの地域を「心の温まる心のふるさと」として、残るように持っていく。また、「卒論のテーマ」地として、学生達に宣伝をさせる事によって卒論を描く学生達が多く集まってくる。 ・6次産業化の推進を行うに当たって、都市住民の知恵、識見などを持った人を募集し、地元住民の6次産業化力と合わせた特産品づくりを行い、販売戦略や宣伝手法を相互に協議していくような特産品販売も1つの思考と考える。

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
堀口 悟	ほりぐち さとる	ランドブレイン株式会社	<p>■まちやむらの総合診療医としての確な診断を行います</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 具体的なプロジェクトを立案する前に、地域課題の本質をつかむための初期診断を大切にします。データに基づく分析のほか、地域に入って丁寧なヒアリングを行い、複数の角度から意見や思いを引き出します。それらを現場でファシリテーションすることで、地域の状況、問題点の整理、課題の本質をわかりやすく整理し、見える化します。 <p>■地域が一步踏み出すために一緒に走りながら考えます</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の関係者が共有できる目的の設定と、設定課題に対して的確なプロジェクトの立案を支援します。そして、地域の歩幅でいまでできる一步目のアクションを決めて、動き出す支援をします。活動をはじめ仲間を増やし組織をつくる過程には、いつも小さな問題は発生しますが、一緒に考えて改善・実践するサイクルを伴走します。 <p>■道の駅や地域商社・DMOの専門家として支援します</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 道の駅の新設、再生の糸口を探す道の駅、地域商社やDMO機能を備える道の駅など、これまで多くの事例に関わってきました。そこで培ったノウハウには、道の駅自体の経営の工夫もありますが、地域のつくり手がいかに移ぐことができるのか、常にその視点を大切に助言してきました。農林水産業や加工業、小売サービス業、観光業を含め、地域全体の外貨獲得の仕組みづくりを支援します。 <p>■地域ブランド化や六次産業化の専門家として支援します</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域資源を活かした商品やサービスのブランド化について、これまで20団体・企業の支援事例を有しています。商品開発や販路拡大といった“攻め”の活動だけでなく、地域団体商標を含む商標制度を活かした“守り”の活動もバランス良く配置し、それらを踏まえたブランド戦略の構築を支援します。また、農家の六次産業化や農商工連携による商品づくり、地域資源を活用した観光コンテンツ造成にも、多くの経験があります。
本田 勝之助	ほんだ かつのすけ	本田屋本店 有限会社	<ol style="list-style-type: none"> 1. 農業と食から実績を積んだ地域プロデュースの総合専門会社を経営。 2. 代表商品は「本田屋継承米(氏郷)」。肥料開発及び、生産管理、販売まで一貫して行っている。納入先には銀座久兵衛や金田中などの名店、京都伊右衛門サロンなどカフェレストラン等で使われている。 3. 全国各市町村への戦略的アドバイス、ブランドや商品開発、産業活性化への各種取り組みなどの要望に応え、地域との官民連携で戦略的にプロデュースしている。 4. 伝統工芸品のリブランド、商品開発。(Futradition WAOとの協業) 5. クリエイティブ: PR制作物(コピー、ポスター、リーフレット、映像、各種) 6. 観光やまちづくり、スマートシティ等のモデルづくり。 7. 日本遺産認定の全地域に対しての統括プロデューサー業務
本田 節	ほんだ せつ	有限会社 ひまわり亭	<p>1998年に、地域のボランティアグループ「ひまわりグループ」のメンバーと共に地域の主婦たちによる地産地消の農村レストランを立ち上げました。「もったいない」をキーワードとし、地域の財産ともいえる「おばちゃん・おばあちゃんの知恵・経験・技・感性」を活かさないのは「もったいない」、地域の素晴らしい食材を活かさないのは「もったいない」、取り壊し寸前の築120年の古民家が「もったいない」、ということで古民家を移築したお店を拠点に地域の素材を出来る限り活用し、安心安全な食を提供しています。また、「食」を通して、地域づくりへの貢献や食育活動、女性の起業アドバイスにも力を注いでいます。</p> <p>さらに、2002年頃からは、グリーンツーリズムの推進にも積極的に取り組んでおり、地元地域を巻き込んで「広域連携によるグリーンツーリズム実践」を推進しています。</p> <p>日本各地、さらには韓国等国外からの視察研修を受入れており、学生のインターンなども積極的に受入れております。</p>
松井 郁夫	まつい いくお	株式会社 松井郁夫建築設計事務所	<p>古民家の知恵に学び、日本の気候風土に合った木組の家づくりを実践。「むかしといまをみらいにつなぐ」住まいづくりを通して美しい日本の風景と地域コミュニティの再生がテーマ。</p> <p>良質の木の家に住みたくても手が出ないと思っている建主、伝統の技を活かす場所がないと嘆く職人、植林の費用が必要な山のために、協働することでそれぞれの夢をかなえる、共存共栄の仕組み“ワークショップ「き」組”を立ち上げる。</p>

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
松嶋 匡史	まつしま ただし	株式会社瀬戸内ジャムズガーデン	<p>手作りジャム専門店「株式会社瀬戸内ジャムズガーデン」代表取締役。周防大島観光協会副会長のほか山口県のキャリア教育推進委員や活力創出推進会議委員なども務める。</p> <p>2001年10月に新婚旅行先のパリでジャム屋と出会い2003年11月個人事業として手作りジャム専門店を高齢化率日本一と言われた瀬戸内の島、周防大島（山口県）にて創業。</p> <p>耕作放棄地を借り受けて自社農業部門を立上げ、現在はブルーベリー・あんず・金時いも・いちご等を生産。店舗では自家製ジャムを活用したスイーツが楽しめるカフェギャラリーを運営するなど、ジャム加工のみでなく、農業（一次産業）・加工業（二次産業）・サービス業（三次産業）をミックスした6次産業形態の事業を展開。地域を巻き込んだ6次産業化を実践している。地域資源を活用し、地域に産業と雇用を創出することを主眼に活動を展開し、現在では首都圏からの移住者を含めスタッフは30人の規模。最近はお寺と連携した空き家のリノベーションで移住者の呼び込みを行ったり、全国初の小中高連携起業家教育への取り組みなど活動は多種多様。2014年新書大賞受賞の「里山資本主義（角川書店）」などでその取り組みが紹介されている。</p>
政所 利子	まんどころ としこ	株式会社 玄（げん）	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域／環境計画・総合プロデュース 地域計画・環境計画・公共事業・事業計画・産業活性化計画の総合プロデュース 2. 地域ブランド・国産ブランド／商品開発・商品企画／人材教育 プロダクト・プランニング・ビジネスプロデュース・メディア計画 3. 地域PR・SP計画の企画制作 SP企画、マーケティング計画、メディア計画、総合コミュニケーションプロジェクト 4. 行催事の企画制作・実施／海外向け地域ブランドPR事業の企画制作 イベントのプランニングからのプロデュース、実施 5. グラフィック・エディトリアル・映像・立体デザインの企画制作 SP・PR・コピー編集、デザイン、展示映像制作等のマルチメディア企画 6. 都市計画・地域計画・事業計画に関わるソフト事業の企画・設計と運営管理 地域計画に関連する人材教育の各種ツール制作、快適環境整備等のソフト事業設計 7. 和学塾食会議事務局 国産食材のPR事業を通じて国内農産品生産地の活性化と次世代の後継者づくりに貢献します。
三上 亨	みかみ とおる	（一社）政策集団地域再生青森会議 NPO法人グリーンエネルギー青森	<p>2003年度 あおもり市民風力発電所建設（建設費3億8000万円）</p> <p>2004年度 市民風車ブランド「風丸」（青森県在来種枝豆）の販売開始</p> <p>2004年度 コミュニティビジネスと地域再生の支援開始</p> <p>2005年度 市民・NPO・町協働の「絆ヶ沢マッチングファンド」助成事業開始（～2008年度）</p> <p>2005年度 グリーンエネルギー青森が、総務省から過疎地域自立活性化表彰を受ける。</p> <p>2005年度 津軽鉄道・津軽鉄道サポーターズクラブの支援開始。</p> <p>2006年度 都市再生モデル調査で、津軽鉄道再生に向けたアクションプランを策定。</p> <p>2007年度 青森県大舘町で、OH!!元気隊の設立を支援。町再生に向けたアクションプラン策定。</p> <p>2008年度 津軽鉄道サポーターズクラブが総務省から過疎地域自立活性化表彰を受ける。</p> <p>2008年度 元気隊有志がプロジェクトおおわに事業協同組合を設立。赤字施設「大舘町地域交流センター舘come」の指定管理受託決定。</p> <p>2009年度 指定管理受託初年度で、舘comeの黒字化を達成。</p> <p>2012年度 プロジェクトおおわに事業協同組合が、地域づくり総務大臣表彰を受ける。</p> <p>2016年度 大舘町大舘増産推進委員会地方創生事業受託</p> <p>2016年度 プロジェクトおおわに事業協同組合が地域づくり国土交通大臣賞金賞を受賞</p>
水野 正文	みずの まさふみ	郡上大和総合開発株式会社	<p>1993年から古今伝授の里づくりに関わり和歌文化の拠点施設「古今伝授の里フィールドミュージアム」をオープン。1999年「やまと温泉やすらぎ館」の立上げ、営業指導を行い雇用の創出、福祉向上を図る。続いて2001年「くつろぎ広場」、道の駅をオープンさせ、特産品開発、販売サービス、営業指導管理を行い、若者・女性の働き場を確保。2005年に東海北陸自動車道「ぎふ大和PA」内にサービス施設をオープンさせ、高速交通網を活かした特産品の販売拠点を整備。4施設の経営管理を市から指定管理料0円で3セクが受託し、その利益から順調に開発型インター借入金を償還。2007年から郡上地域活性化協議会・交流部会長として、国の地方の元気再生事業により「郡上長良川流域森と川の恵み集落再生実証事業」に取り組む。県のアグリマイスターとして、他市を指導。全国的には、三重県、島根県、九州、福井県でのまちづくり、3セク経営などの講演活動と共に、関係者の現地研修受入指導を実施。また、JICAに協力し、中国、ブルガリア、ベトナム、中央アジアからの視察研修受入指導、ベトナムにおける国道の駅管理運営指導を行う。</p> <p>NPO法人コミシス郡上の監事として、福祉、教育活動を行う。</p> <p>現在は郡上市役所を早期退職し、まちづくりを行う第三セクターの代表取締役として、経営管理を行っている。</p>

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
御園 慎一郎	みその しんいちろう	大阪大学/地域活性学会	<ul style="list-style-type: none"> ・自治省入省後、地方税財政制度の企画立案に参画。また、福井県、愛知県、茨城県において県政運営に関わるとともに県下市町村の行財政運営にも関与する。制度立案過程の構造と組織運営の提言を学ぶ ・サッカープレーヤーであったことなどによる日本サッカー界との縁で2002 FIFAワールドカップ組織委員会に勤務。アジアで初めて、初めての共同開催というワールドカップの成功に寄与。スポーツの持つ一体感や形成力を実感するとともにサポーターとの距離感の取り方の重要性や国際的事業における交渉力の大切さを痛感。 ・内閣官房地域再生本部において地域社会の活力を構築するための国家組織をあげてのシステムを構築。その一環として地域再生法を制定。全国に地域再生の輪を広げる。 <ul style="list-style-type: none"> ・地域再生のため大学との連携システムを考案。「地域再生システム論」として30を上回る大学における地域活性化講座開設に寄与。自らも複数の大学で教鞭もとる。 ・地域活性化をともに語りともに進めるための集団としての「地域活性学会」の設立を発案。発足にも貢献。現在副会長として学会活動の進展、とりわけ学会スポーツ振興部会長として2020東京オリンピックパラリンピックのホストタウン運動を契機とした地域づくりの支援活動を積極的に展開中。 ・厚生労働省において介護保険や生活保護などを担当。介護予防を地域で支える事業の一環としてJリーグのチームによる地域の健康作り活動の展開を提唱し実現に。その延長線上の活動として医療介護のサービスの質の向上や究極の地域づくりである「地域包括ケアシステムの構築」に際して欠かすことのできないヘルスデータをクラウド上で管理することを目的とするNPO法人の活動を展開中。
宮 桂子	みや けいこ	NPO法人 菜の花トラスト	'97菜の花サポーター(第1期)登録
宮城 治男	みやぎ はるお	特定非営利活動法人ETIC.(エティック)	<ol style="list-style-type: none"> (1)起業家型リーダー育成プログラム <ul style="list-style-type: none"> ・起業家、リーダーを志す若者をベンチャー・中小企業の現場にマッチングする「アントレプレナー・インターンシップ・プログラム」 ・ETIC.イノベーターズ・スクール(起業家講演会) (2)ソーシャル・アントレプレナー輩出プロジェクト <ul style="list-style-type: none"> ・社会起業家の事業基盤確立、ベンチャー企業とのマッチングを支援する「イノベーション・グラント」 ・社会起業家を志す若者のビジネスプランコンテスト「STYLE -Social venture competition」 ・社会起業塾イニシアティブ(NEC社会起業塾、花王社会起業塾、横浜社会起業塾) ・東海若手起業塾 ・個別プロジェクト経営相談会 (3)チャレンジ・プロデューサー輩出プロジェクト <ul style="list-style-type: none"> ・地域の若者と、挑戦する中小企業 ・地場産業等を繋げる「チャレンジ・コミュニティ・プロジェクト」 ・地域の社会起業家、起業家型リーダーの発掘、育成 (4)大学や行政との地域協働プログラム開発 (5)震災復興リーダー支援プロジェクト
三宅 曜子	みやけ ようこ	(株)クリエイティブ・ワイズ 株式会社マーケティング・ナビ	女性の感性を生かし、消費者ニーズを的確にとらえた中小企業のマーケティング全般の支援、地域の活性化事業支援を行っています。特に食関連のマーケティングに関しては、メニュー開発をはじめとする商品開発、パッケージやラベル、広告戦略、販路開拓までトータルに支援。工芸品に関しては、広島県熊野町の化粧筆を世界レベルのブランドにプロデュースするなど、商品開発から戦略支援までを実施。2007年、経済産業省の中小企業地域資源活用事業プログラムの政策審議会委員、また、衆議院経済産業委員会、中小企業地域資源活用促進法案参考人として国会に立ちました。以後、地域資源を活用した商品開発や販売促進、販路開拓、観光事業開発、農商工連携事業や農業の六次化、建設業の業態拡張や業態転換、ソーシャルビジネス、コミュニティビジネス、海外展開支援等、中小企業の活性化に対する幅広いハンズオン支援を行っています。
望月 孝	もちづき たかし	株式会社プロジェクト地域活性	東北地域において、地域の人財育成・確保、農商工連携等6次産業化・地域ブランドの推進、観光・ツーリズムの推進等、地域の「人財」を核にして地域活性化を支援しています。現在、東日本大震災からの復興農商工連携等6次産業化による地域の活性化に重点を置き、東北地域の6次産業化を担う人財を育成・確保する『6次産業化プロデューサー育成塾』『東北のムラで働き隊!プロジェクト』等の取組みを実施しています。
森 昭彦	もり あきひこ	有限会社オフィス・ビーノ/一般社団法人奈良県中小企業診断士会	・地域産業振興を軸にした地域活性化、農林業活性化や地域資源活用を軸にした地域活性化、観光やDMO形成を軸にした地域活性化等、多様な形で地域活動を支援しています。

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
森賀 盾雄	もりが たてお	愛媛大学	<p>長年、市行政の内部と外部を結び、研究会や市民団体を組織して、地域づくり・産業おこしに取り組んできた。それらの成果を生かして全国で講演・地域づくりの支援・アドバイス・企業社員研修等を行ってきた。とりわけ地域資源を活かした地域づくり・人材づくり・産業遺産の活用・産業観光・NPO活動で実績を残している。市職員から大学教授になり教育・研究を進めており、環境・農山漁村の地域再生や起業論をも対象とした幅広い分野での対応・取組となっている。テーマとしては「地方工業都市の産業文化創造都市への発展」「産業遺産を活用した地域づくり」「これからの地域づくりの主体形成とマネジメント及びマーケティング」「地域起業マネジメント」等である。愛媛大学での「紙産業修士コースの創設」、社会人「地域マネジメントスキル講座」の開設で中心的役割を担い、後者では150名の受講修了生を愛媛大学地域再生マネージャーとして送り出している。2014年度からは愛媛大学地域再生マネージャーのさらなる学びのための「地域再生塾」、「須崎未来塾」、「いはま未来創造塾」の塾長として、講座を超えた「私塾的実践的人財づくり」を精力的に取り組んでいる。</p>
森本 明夫	もりもと あきお	-	-
箭内 武	やない たけし	株式会社YANA I 総合研究所	<p>1. 改善コンサルティング(セル生産方式) 材料メーカー、家電、電子部品、機械加工、製造工場の現場改善を中心としたコンサルティング。調剤薬局の在庫削減、労働時間の改善など。</p> <p>2. 人材育成 青森県、八戸市等の人材育成プログラムに従事。高校生、大学生、社会人の研修講師として活動。 八戸学院大学客員研究員として地域社会人向けセミナーを行う。</p> <p>3. 企業マッチング支援 ものづくりコーディネーターとして産学官の連携、企業の国内外のビジネスマッチングを企画実施。</p>
矢原 正治	やはら しょうじ	山口東京理科大学薬学部、 熊本有用植物研究所	<p>私は、地域には多くの「宝」が眠っているが、日常生活の中で当たり前となっており、地元の方は気づかないことが多いため、地元以外の専門家が、現地に入り、聞き取り調査を実施すると、その地域の多くの「眠れる宝」を見いだすことができると思っている。また、1次に、2次、3次を足して、6次産業と言われるが、情報関係が入っていないため「6次産業+情報産業」を進める。 地域にある、モノと人の宝を探し、まず、薬用植物、有用植物にフォーカスした、地域おこしを主とし、環境関係も絡め考える。</p> <p>ネパールのAITM大学の生物工学科の学生に講義と実習を行っています。 また、ネパール日本友好財団に参加し、田舎の子供達の教育の向上を行っています。</p>
山形 正道	やまがた まさみち	山形薬用植物園 / 鹿児島県 立福山高等学校 他4校	<p>鹿児島県民の森・自然薬草の森において協力員として、また大学で習得した知識や漢方薬・生薬認定薬剤師として見学の方々には薬草教室で薬草の講話と薬草園を散策しながら薬草を手にとって実感してもらい、職員の方々には薬草の栽培などの指導・助言を行いました。霧島市保健センターの要請で市民の方に薬草の話や健康についての講話を行っています。平成15年、自宅内の約300㎡に薬草園を開設。約450種の薬草木を植栽し、見学無料で一般公開しています。2年前から始良地区薬剤師会からの要請で薬学生5年次における長期実務実習(薬局・病院においてそれぞれ11週が義務づけられている)のカリキュラムの漢方製剤の単位として薬草見学1時間、漢方講義1.5時間行っております。これから先、漢方薬の原料である生薬の一大生産国の中国からの輸入が難しくなります。国内生産を模索する時期に来ていると思います。そこで、国内生産と自給率の向上のために生産者の方々に指導・助言等の支援ができれば幸いです。</p>
山川 進	やまかわ すずむ	公益財団法人 三重県産業支援センター	<ul style="list-style-type: none"> ・「企業誘致」…製薬会社、外資系企業など大型企業誘致を実現。東京、福岡において「SOHO(スモールオフィス・ホーム)形態」での企業誘致活動を行い、企業・行政との新たなネットワーク構築を行う。 ・「新たな企業投資促進制度の創設」…マイルージ制度、マザー工場化の促進などを柱とする新たな制度を創設し、県内への企業投資を促進。 ・「コンビナートの再生」…行政・産業界が協働した、規制改革や新たな産業展開の内容をパッケージとし、構造改革特区に申請、第1号認定を受けることに尽力する。 ・「様々な連携」…「地域発のオープンイノベーション創出」を行う「高度人材イノベーションセンター(AMIC)」を三重県四日市市に設置。地域の産業構造の「知識集約型産業構造」への転換を目指す。ここで、現在も異業種・同業種連携、大企業と中小企業の連携、各種課題解決、産業人材の育成などを行っている。 ・「温泉街の活性化」…三重県菟野町の湯ノ山温泉にて、各業者での取組を地域一丸となったものへとコーディネートし、「女将の会」結成などにつなげる。 ・「町おこしリーダー研修」…三重県紀北町の町おこしリーダー研修にてアドバイザーを務め、研修生の成果を行政や地元産業界とも連携した継続的な取組へと繋げる。 ・「中小企業連携(シンジケート)の促進」…複数ものづくり中小企業が得意とする技術やノウハウを結集し、技術レベル向上や新たなマーケット開拓などにつなげるための中小企業連携体の構成に尽力。三重県には全国トップクラスの連携体が構成されるに至っている。 ・「三重県海外ビジネスサポートデスクの開設」…成長する新興国等の市場を取り込むため、中小企業の海外展開を支援する「海外ビジネスサポートデスク」(中国、ASEAN)の設置に尽力。 ・「三重県と北海道との産業連携」…「三重県・北海道」産業連携推進会議」の設立に尽力。三重県と北海道の「ものづくり技術」と「地域資源」の連携を進め、新たなビジネスの創出、さらには地域経済の活性化に繋げる。 ・首都圏営業拠点「三重テラス」…東京日本橋において、三重県の魅力を総合的に発信する拠点「三重テラス」の開設に尽力。 ・三重県中小企業・小規模振興条例の策定に尽力 ・職員研修センターで県職員向けの研修を実施。三重県職員の人づくりの参画、三重県の商工部門の第1人者として活躍した経験に基づき、自ら研修講師として三重県職員に語りかけることで、現場を大切にする職員を育成。 ・経済産業省の「ひとづくりの切磋琢磨による地域創生実行会議」の委員として参画。 ・沖縄県と連携して、沖縄の物流特区を活用した東アジア戦略を模索するほか、他地域との連携を検討中。さらに地域のコアとなる中小企業との連携を深めて、海外への販路拡大や現地での人材育成の取組を進める。 ・各地の事業者や産業支援機関と連携し、地域商社等を通じた地域製品の販売や中小企業が連携した新たなビジネスや人材交流を促進。

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
山口 成美	やまぐち なるみ	有限会社 シュシュ	地域農業の活性化を目指し平成8年にビニールハウスで農産物直売所をオープン後様々な施設を建設し、現在では農業交流拠点施設おおむら夢ファームシュシュに年間49万人の来場者を迎えており従業員数約80名で地域の活性化及び雇用に大きく役立っている。 また、六次産業にも積極的に取り組んでおり、アイス、パン、洋菓子、レストラン、農産物加工センター等で地域で採れた農畜産物を加工販売することにより農家の所得向上と付加価値を高めた地域ブランド商品作りを行なっている。他にもグリーンツーリズムによる地域の活性化も行なっており、イチゴ、梨、ブドウ、ブルーベリー等の観光農園や農家民泊にも取り組んでおり、都市と農村の交流を行なっている。
山下 真輝	やました まさき	株式会社ジェイティービー 旅行事業本部 観光戦略室	これからの「観光」は、異業種・異分野の人びとや様々な産業を融合することによる新しい価値創造の「場」として、取組まなければならないと考えています。新しい時代の観光振興は、宿泊施設、交通機関、観光施設等の狭義の観光産業による観光振興ではなく、様々な分野の産業を連動させ、現代社会の消費者が求める価値をつくり出すための連携の場をつくり出す必要があり、地域の未来を考えている住民の方々とのワークショップやセミナーを通じて、地域の目指すべき姿や観光地域づくりのコンセプト探しを行ってまいります。更には地域のコンセプトに沿ったシティプロモーション戦略、着地型旅行商品づくり、地域資源の6次産業化など観光を基軸とした地域活性化に取り組んでいます。最終的に様々な事業を推進するリーダーシップ人材の育成が不可欠であり、立場や自分の利害を超えて行動することができる観光地域づくり人材の育成もサポートさせていただきます。全国各地の観光地域づくりに関わってきた経験と常にマーケット動向を見ている旅行会社の視点を持って、地域活性化に取り組んでまいりたいと思います。
山田 桂一郎	やまだ けいいちろう	JTIC. SWISS	これまで北海道から沖縄県の離島まで全国各地のあらゆる地域振興や活性化に関わってきました。特に、住民主体の地域経営組織の立ち上げと運営や民間事業として様々なビジネス化による収益事業で成果をあげています。基本は全て「自立」と「持続」です。 また、政策、施策、事業化には地域経営の視点を重視しています。どれだけ良い計画やデザインであったとしても人間社会の「エゴ」と「利害」により全てが崩壊します。 多くの地域で、行政の単年度やりっぱなし事業で地域が疲弊疲労している現実があります。地域住民も何をやって良いのか全くわからない場合もあります。それ以上に目の前の生活に困っていない人もいます。 このような状況から脱出するためには、地域の問題、課題を自分事として住民が認識することが重要であり、住民が根本的な解決と共に自らの未来を切り開く活動に取り組むことが必要です。学問や机上の空論の世界ではなく、日々現場で地域が生き残るために住民の方々と共に考え、実践しています。
山戸 健	やまと たける	熊本ネクストソサエティ株式会社	官・民連携をテーマに、特にITを活用した食の流通促進の仕組みを構築してきました。 □経済産業省・農林水産省 農商工連携事業 認定 「不知火海など熊本近海で採れる生鮮魚介類の新流通システム構築事業」 □熊本市 平成23年～25年 こだわり熊本やさい地域内流通モデル支援業務 □熊本県 商工観光労働部テーマ選択型地域雇用創造事業 「熊本の農林水産業者・食品加工業者への情報提供による新商品開発および販路開拓機会の創出」 □熊本市 地場企業雇用支援事業 「県内外からのお問い合わせに対応する、熊本市の生産物・加工品・6次化商品等の検索システム開発による販路拡大支援事業」 □フード・アクション ニッポン (共催：農林水産省) 平成25年度 フード・アクション ニッポン アワード 流通部門 優秀賞 「「フードバンク」を活用し「顔の見える生産者」を発信」
山中 守	やまなか まもる	国立大学法人 熊本大学	ICTが普及すればするほど東京と地方の格差が拡大してきており、本来の情報化による地域格差は正への期待とはかけ離れてきています。この原因の一つはネット社会の特性を活かすための工夫が、地方自治体の職員に必要ですが、その学習の機会が少なすぎることと思います。 具体的な取り組み事例を通して、地域活性化におけるICT活用の有効性と認識を高めて行けるよう取り組んでいます。
山本 和子	やまもと かずこ	有限会社農業マーケティング 研究所	★委員会など★ ● 農林水産省農林水産政策研究所参与 (2002年～2006年) ● 農林水産省独立行政法人評価委員会委員 (2003年～2007年) ● 農林水産省政策評価会農村振興局専門部会委員 (2004年～2007年) ● 農林水産省政策評価会経営局専門部会委員 (2004年～2007年) ● 内閣官房地域活性化統合事務、局首都圏地域活性化推進連絡会議委員 (2007年 3月～2011年) ● 内閣官房地域活性化統合事務局「地域活性化伝道師」(2008年9月～)
横田 純子	よこた じゅんこ	特定非営利活動法人 素材広場	福島県地産地消推進事業 ・福島県内の素材情報発信 ・受発注業務 福島県地産地消企画事業 ・宿の地産地消に関わるリニューアルやスタッフ研修など ・行政や会員外からの地産地消に関わる企画および運営 旅行事業 ・宿の手配 ・体験プログラムの構築 ・着物レンタル

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
吉田 敦也	よしだ あつや	徳島大学 地域創生センター	<p>取組内容</p> <p>徳島大学フューチャーセンターA. BAディレクター</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フューチャーセンターの構築運用、デザイン思考ワークショップ、イノベーション創出、人材育成 ・上勝自然学校「もりのべ」統括ディレクター ・「場」を基礎にした学びのプログラム開発、地域/国際連携による実践、子育て支援への応用 <p>NPO法人いきいきネットとくしま理事長</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シニアICTリテラシー形成支援活動、会員約260名 <p>総務省事業「とくったー」プロジェクトリーダー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スマートフォンとツイッターによる高齢者の見守りシステムの開発と実践
米田 雅子	よねだ まさこ	慶應義塾大学 研究連携推進本部	<p>2007年～2010年に内閣府規制改革会議委員（地域活性化、農林水産業、あじさい・もみじ要望を担当）。補助金適化法の弾力運用、ボランティア有償運送の実現、農地法・酒税法・森林法改正に寄与。</p> <p>構造改革特区評価・調査委員、PFI推進委員会委員、経産省の農商工連携88選委員長等を歴任。農商工連携、林建協働、平成検地の政策を提唱。</p> <p>現在は、建設産業、建設業の複業化、防災、森林再生、地方公共政策など幅広い分野で、フィールドワークを重視した研究と支援活動を行い、大震災後の防災・減災政策にも取り組む。日本学術会議会員。建設トプランナー倶楽部代表。上閉伊地域（釜石、遠野、大槌）復興住宅協議会顧問。JAPIC（日本プロジェクト産業協議会）森林再生事業化委員会特別顧問。国産材マーク推進会特別顧問。防災学術連携体（日本学術会議と連携）幹事。</p>